
大洲市スポーツ推進計画

スポーツでおおずを、もっとええ故郷（ところ）にしようや！

令和２年度～令和６年度



令和２年３月
大洲市教育委員会

スポーツで活力のある まちづくりを目指して！

「スポーツは、世界共通の人類の文化である」

この言葉から始まるスポーツ基本法は、平成23年6月に公布され、スポーツの価値や意義、スポーツの果たす心身の健康における重要な役割について述べられています。



この法はもとより、スポーツは、私たちの心身の健康の保持増進に重要な役割を果たし、健康寿命の延伸の実現に不可欠であり、人と人、地域間の交流を促進させる等、地域社会の活性化を図るうえでも非常に重要な役割を担っていると認識しています。

さて、国内においては、昨年ラグビーワールドカップが開催され、大いに盛り上がったのは記憶に新しいところです。さらに今年は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が予定されており、ますますスポーツへの関心が高まってきております。

一方、本市においては、平成30年7月豪雨において、5名の尊い生命をはじめ、市民がスポーツを楽しむ場所や機会が失われ、現在もなお復興の最中にあり、大洲市復興計画に基づき1日も早い復旧復興に向けての取組を進めているところであります。

このような状況から、大洲市教育委員会では、スポーツが活力あるまちづくりの原動力となるよう、国、県のスポーツ施策との整合性を図り、「スポーツでおおずを、もっとええ故郷（ところ）にしようや！」を基本理念とした、「大洲市スポーツ推進計画」を策定いたしました。

今後は、本計画に基づき、市民の皆様に「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに関わっていただくとともに、人との交流やつながりを持ち、健康で豊かな生活を営むことができる活力ある「まちづくり」を目指して、スポーツ施策に取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画策定に当たりまして、慎重なるご審議の上、貴重なご提言を賜りました策定委員会委員および有識者の皆様をはじめ、アンケート調査などにご協力をいただきました皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。

令和2年3月

大洲市教育長 東山 宏

目次

第1章	大洲市スポーツ推進計画策定の基本的な考え方	1
1.	計画策定の背景	1
2.	計画の役割	1
3.	計画の位置づけ	1
4.	計画期間	2
5.	計画の策定体制	2
(1)	大洲市スポーツ推進計画策定委員会の設置	2
(2)	大洲市スポーツ推進計画に伴う有識者会議の開催	2
(3)	大洲市スポーツ推進計画策定のためのアンケート調査 (市民アンケート)の実施	2
第2章	大洲市スポーツ推進計画の構成	3
1.	基本理念	3
2.	基本方針	3
(1)	スポーツで、もっと元気に	3
(2)	スポーツで、もっと住みやすいように	3
(3)	スポーツで、もっと仲良くなるように	3
(4)	スポーツで、ええ将来にしようや	3
3.	目標項目	4
(1)	スポーツで、おおずを元気にするんよ！ (スポーツ機運の定着と地域振興)	4
(2)	スポーツに親しむ人を増やすんよ！ (スポーツ参画人口の拡大)	4
(3)	スポーツを気もちようにできるようにするんよ！ (スポーツ環境の充実と競技スポーツの発展)	4
(4)	スポーツでみんなとつながってにぎやかにやろうや！ (スポーツを通じた交流の促進と地域活性化)	4
第3章	大洲市をとりまく現状	6
1.	大洲市の人口の推移と将来の見込み	6
2.	大洲市の要支援・要介護認定者数の状況	7
3.	市内各地区における、運動・スポーツイベント	9
4.	市のスポーツイベント参加状況(一部抜粋)	12
5.	スポーツ少年団、中学校部活動等の状況	14
第4章	アンケート結果で見る大洲市の現状	16
1.	アンケート調査の概要	16
(1)	アンケート調査の目的	16
(2)	調査対象及び調査方法	16
(3)	配布数及び回収結果	16
(4)	アンケート結果の基本的取扱いについて	17
2.	アンケート結果	18
(1)	スポーツ機運の定着と地域振興に関すること	18
(2)	スポーツ参画人口の拡大に関すること	22
(3)	スポーツ環境の充実と競技スポーツの発展に関すること	28
(4)	スポーツを通じた交流の促進と地域活性化に関すること	37

第5章	施策の展開	39
1.	スポーツで、おおずを元気にするんよ！ （スポーツ機運の定着と地域振興）	39
（1）	スポーツを通じた災害復興	39
（2）	スポーツ推進体制の充実	40
2.	スポーツに親しむ人を増やすんよ！ （スポーツ参画人口の拡大）	41
（1）	子どもから高齢者、障がいのある人のスポーツ活動を通じた、 地域共生社会の実現	41
（2）	心身の健康維持と体力向上 （健康寿命の延伸）	43
3.	スポーツを気もちょうにできるようにするんよ！ （スポーツ環境の充実と競技スポーツの発展）	44
（1）	切れ目ないスポーツ競技活動の支援	44
（2）	スポーツ指導者の育成	45
（3）	トップアスリートの支援	46
（4）	社会体育施設の計画的な維持管理・更新、設備の充実	47
4.	スポーツでみんなとつながってにぎやかにやろうや！ （スポーツを通じた交流の促進と地域活性化）	48
（1）	スポーツイベントの充実	48
（2）	地域密着型プロスポーツ球団を活用した地域活性化	49
（3）	地域資源を活かしたスポーツツーリズムの推進	50
第6章	資料編	51
1.	計画の策定経過・体制	51
2.	大洲市スポーツ推進計画策定委員会 委員名簿	52

第1章 大洲市スポーツ推進計画策定の基本的な考え方

1. 計画策定の背景

平成23年8月、国はスポーツ立国の実現を目指し、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）を施行し、平成27年10月には、スポーツに関する施策を総合的に推進するため、スポーツ庁が設置されました。

その後、平成29年3月には、スポーツ基本法の理念の実現に向け、国、地方公共団体、スポーツ団体等が一体となって施策を推進していくため、「第2期スポーツ基本計画」が策定されました。この計画では、中長期的なスポーツ政策の基本方針として、「スポーツで『人生』が変わる！」、「スポーツで『社会』を変える！」、「スポーツで『世界』とつながる！」、「スポーツで『未来』を創る！」が掲げられ、「一億総スポーツ社会」の実現に向けて取り組むこととされています。これに従い、地方公共団体においても、住民やスポーツ団体等のスポーツ活動を支援するため、スポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域の活性化など、スポーツを通じた活力ある社会づくりに一体となって取り組むことが期待されており、愛媛県においても平成30年3月、「愛媛県スポーツ推進計画」が策定されています。

本市においては、平成30年7月、西日本豪雨災害により市内は広範囲において甚大な被害を受け、市民の憩いの場であった地域の広場や、スポーツ活動の拠点となっていた八幡浜・大洲地区運動公園（以下「平野運動公園」という。）の野球場、陸上競技場などが災害廃棄物の仮置場となったことにより、市民が運動やスポーツに触れる機会が失われている状況です。市は現在に至っても復興の最中で、依然として一部の市民が仮設住宅等での仮住まいを余儀なくされており、一刻も早い災害復興が求められています。

こうした状況を踏まえ、国のスポーツ基本法や第2期スポーツ基本計画、愛媛県のスポーツ推進条例やスポーツ推進計画の理念を具現化するとともに、誰もがいつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しめる環境を整備し、スポーツが活力のある地域づくりの原動力となるよう、本計画を策定するものです。

2. 計画の役割

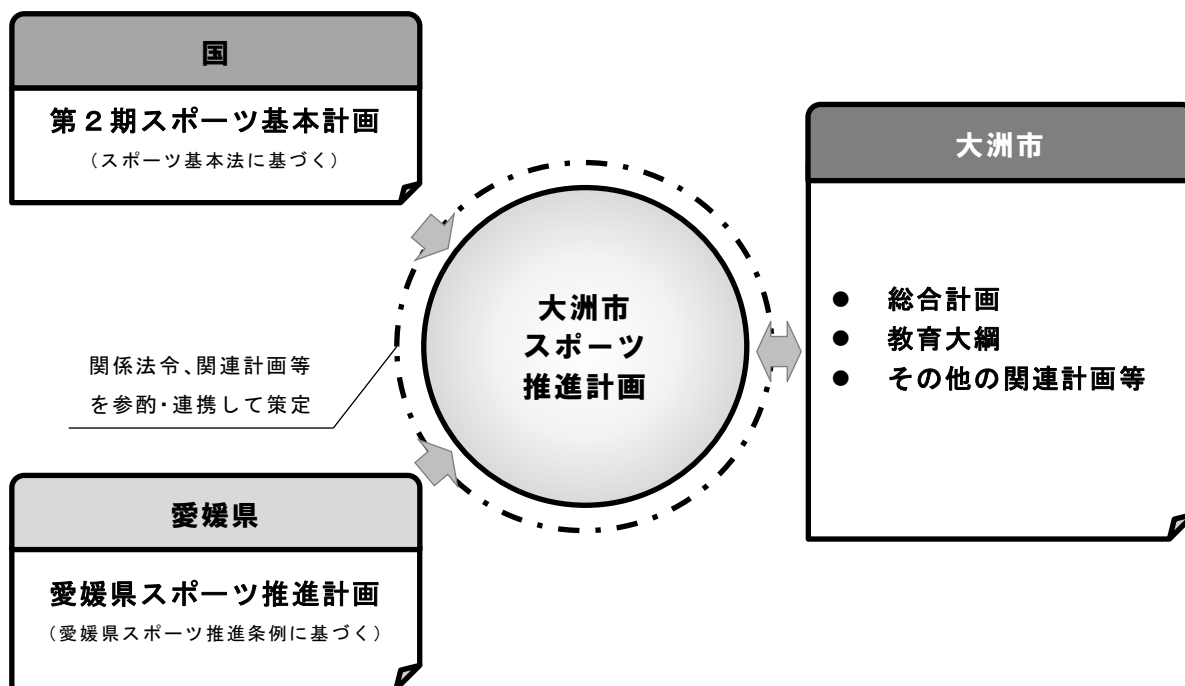
本計画は、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本事項、その他の必要事項について定め、スポーツを通じた災害復興、地域の活性化、市民の心身の健康づくりに向けた指針となるものです。

3. 計画の位置づけ

スポーツ推進計画の策定にあたっては、国、県及び大洲市の関係法令や関連計画等を参酌し、地域の特性やニーズに応じたスポーツ施策を展開するものとします。

なお、本計画はスポーツ基本法における「地方スポーツ推進計画」に相当するものです。

図表 1 本計画の位置づけと策定イメージ



4. 計画期間

本計画は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とし、適宜、必要な見直しを行います。

5. 計画の策定体制

(1) 大洲市スポーツ推進計画策定委員会の設置

本計画策定にあたっては、大洲市教育委員会要綱第5号の規定により、意見及び助言を求めるため、大洲市スポーツ推進計画策定委員会を設置しました。策定委員会は、学識経験を有する者、各種団体の関係者、その他教育長が必要と認める者から組織され、計画策定に関して必要な事項について審議を繰り返しました。

(2) 大洲市スポーツ推進計画に伴う有識者会議の開催

有識者会議は、大洲市出身のスポーツに関して専門的な知識を有する学者、元スポーツ選手、スポーツジャーナリストなどから組織し、策定委員会の開催に先立ち、策定委員会で協議する事項やスポーツ推進計画の骨格などを協議するため開催しました。

(3) 大洲市スポーツ推進計画策定のためのアンケート調査（市民アンケート）の実施

本計画策定にあたり、大洲市をとりまくスポーツ環境の実態や、市民の日頃の運動・スポーツの活動状況、児童・生徒のスポーツ競技活動の実態等を把握するため、一般（20歳～79歳）、小学生（市内の小学4年生）、中高生（市内の中学1年生、高校1年生）を対象に、「大洲市スポーツ推進計画策定のためのアンケート調査」を実施しました。

第2章 大洲市スポーツ推進計画の構成

本計画は「スポーツでおおずを、もっとええ故郷（ところ）にしようや！」をスローガン（基本理念）とし、基本方針、目標項目によって構成されています。

1. 基本理念

スポーツでおおずを、もっとええ故郷（ところ）にしようや！

この基本理念は、本市の総合計画（平成29年策定）の目指すまちの将来像である「きらめくおおず～みんな輝く肱川流域のまち～」、平成30年7月の西日本豪雨災害からの復興に向けた合言葉「がんばろう！大洲」を具現化するとともに、「故郷をもっと元気にして将来へつなぐ」ことを目標としています。

2. 基本方針

本計画は次の4つの基本方針を定め、それぞれを実現することを目指しています。

（1）スポーツで、もっと元気に

市民がいつまでも元気に運動・スポーツに親しめるまちを目指します。

（2）スポーツで、もっと住みやすいように

市民がスポーツに親しみやすい環境づくりを目指します。

（3）スポーツで、もっと仲良くなるように

スポーツを通じた、地域コミュニティの活性化を目指します。

（4）スポーツで、ええ将来にしようや

スポーツで故郷を明るく元気にし、明るい未来を次世代につなぎます。

3. 目標項目

本計画は、基本方針に従い次のような目標項目を定めます。

(1) スポーツで、おおずを元気にするんよ！

(スポーツ機運の定着と地域振興)

本市においてスポーツ推進体制を充実させるためには、まず市民が気軽にスポーツに親しめる機会を増やすことが必要です。また、スポーツを通じた地域コミュニティを活性化させていくことが、地域振興や災害復興において重要となります。

(2) スポーツに親しむ人を増やすんよ！

(スポーツ参画人口の拡大)

スポーツ参画人口の拡大には、年齢、性別、障がいの有無などに関わらず、すべての人がスポーツ活動に親しめる環境づくりが不可欠です。また、誰もが参加できる魅力ある地域スポーツイベントを開催することで、国の第2期スポーツ基本計画においてスポーツ参画人口を拡大するキーワードとなる「する」「みる」「ささえる」スポーツへの関わり方を提案していきます。これにより、多くの人がスポーツに親しみ、運動・スポーツを通じた健康づくり、健康寿命の延伸が期待できます。

(3) スポーツを気もちょうにできるようにするんよ！

(スポーツ環境の充実と競技スポーツの発展)

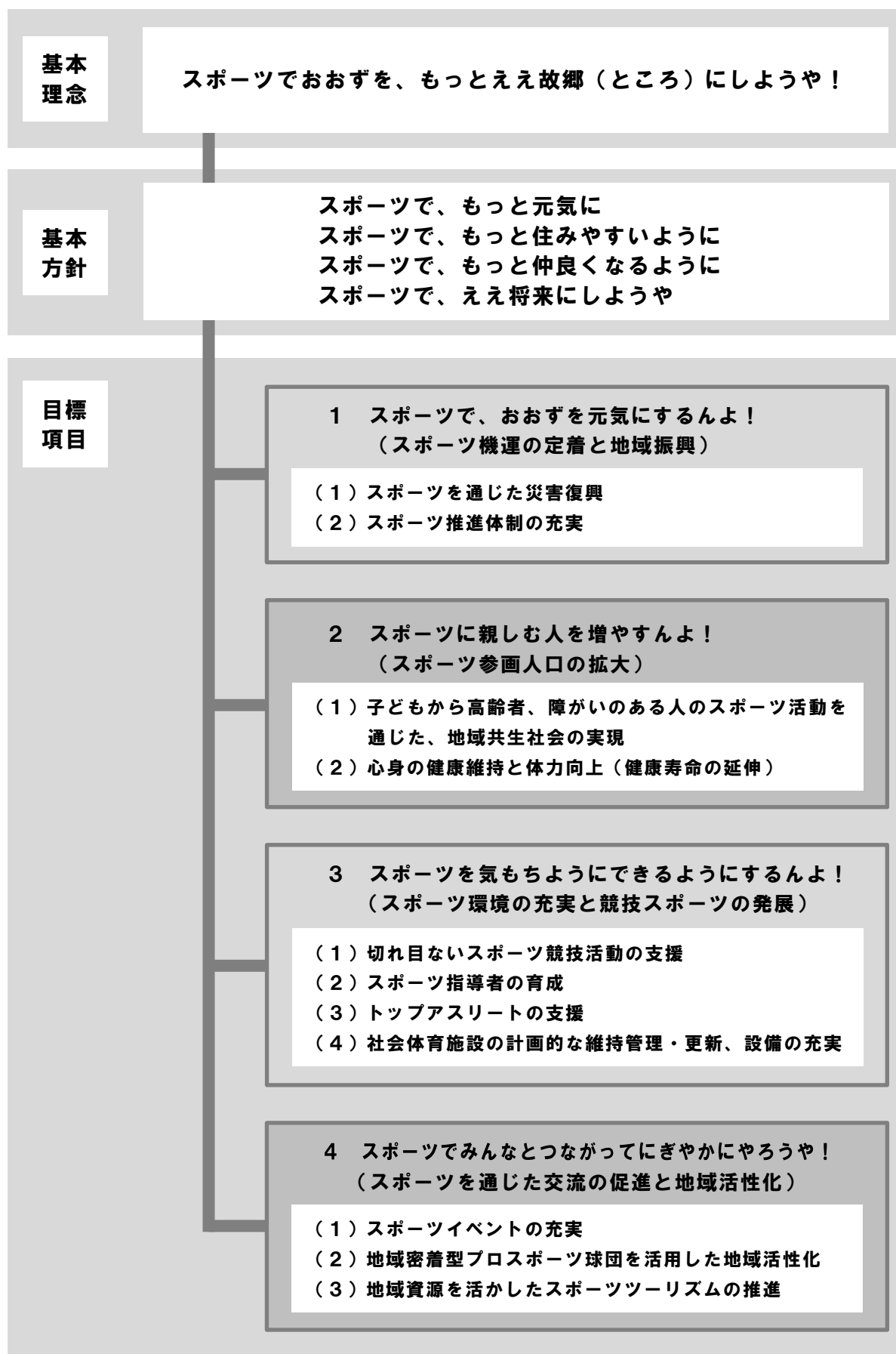
スポーツ指導者の育成等を通じて、幼少期から成人まで、切れ目ないスポーツ活動を支える環境づくりが必要です。また、社会体育施設の計画的な維持管理、スポーツ環境の充実にも取り組んでいきます。

(4) スポーツでみんなとつながってにぎやかにやろうや！

(スポーツを通じた交流の促進と地域活性化)

スポーツはコミュニティの活性化に有効な手段です。スポーツイベント等の充実に努め、世代、地域を超えたスポーツ交流を促すとともに、地元「えひめ」のプロスポーツ球団を応援し、これを活用した地域活性化に取り組みます。また、本市の地域資源を活かしたスポーツツーリズムを推進します。

図表 2 大洲市スポーツ推進計画体系図

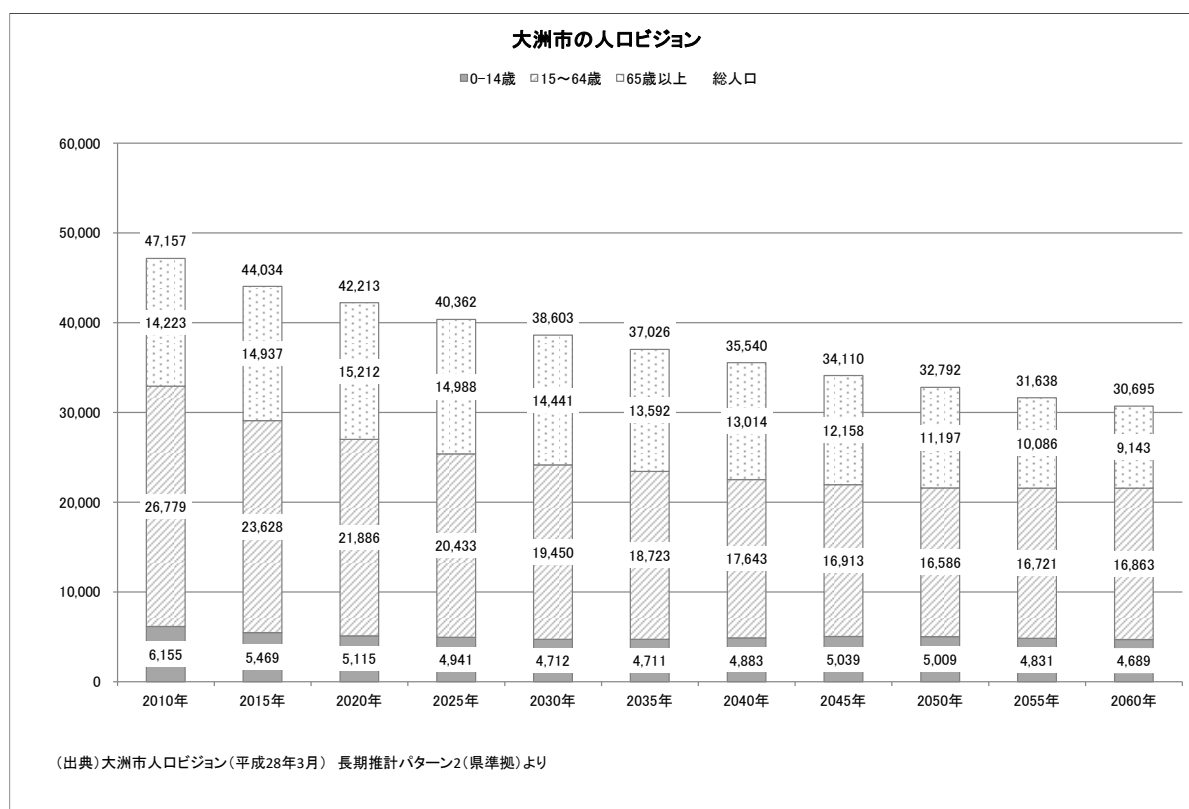


第3章 大洲市をとりまく現状

1. 大洲市の人口の推移と将来の見込み

大洲市の人口は一貫して減少傾向にあり、今後40年間で27%程度減る見込みとなっています。また、年齢3区分別の人口割合を見ると、総人口に対する高齢者人口（65歳以上）の割合は2030年度まで増加傾向を示し、全体の37.4%となる見込みです。

図表3 大洲市の人口の長期的推計（年齢3区分別）



- 人口減少社会において、市内の運動・スポーツ関連施設の計画的な維持・管理が必要です。
- 誰もが運動・スポーツに触れる機会を創出するために、気軽に運動・スポーツに参加しやすく、楽しめるスポーツイベントの検討が必要です。

2. 大洲市の要支援・要介護認定者数の状況

国の介護保険事業状況報告によると、大洲市の要支援・要介護認定者数の状況としては、平成 31 年 3 月末時点で、要介護 1 以下の認定者数割合（％）が全国平均及び県平均を上回っており、要介護 2 以上の認定者数割合（％）は全国平均及び県平均を下回っています。

しかし、認定者数（人）においては平成 27 年 3 月末時点から平成 31 年 3 月末時点までに、要介護 1 以下、要介護 2 以上いずれも増加しています。

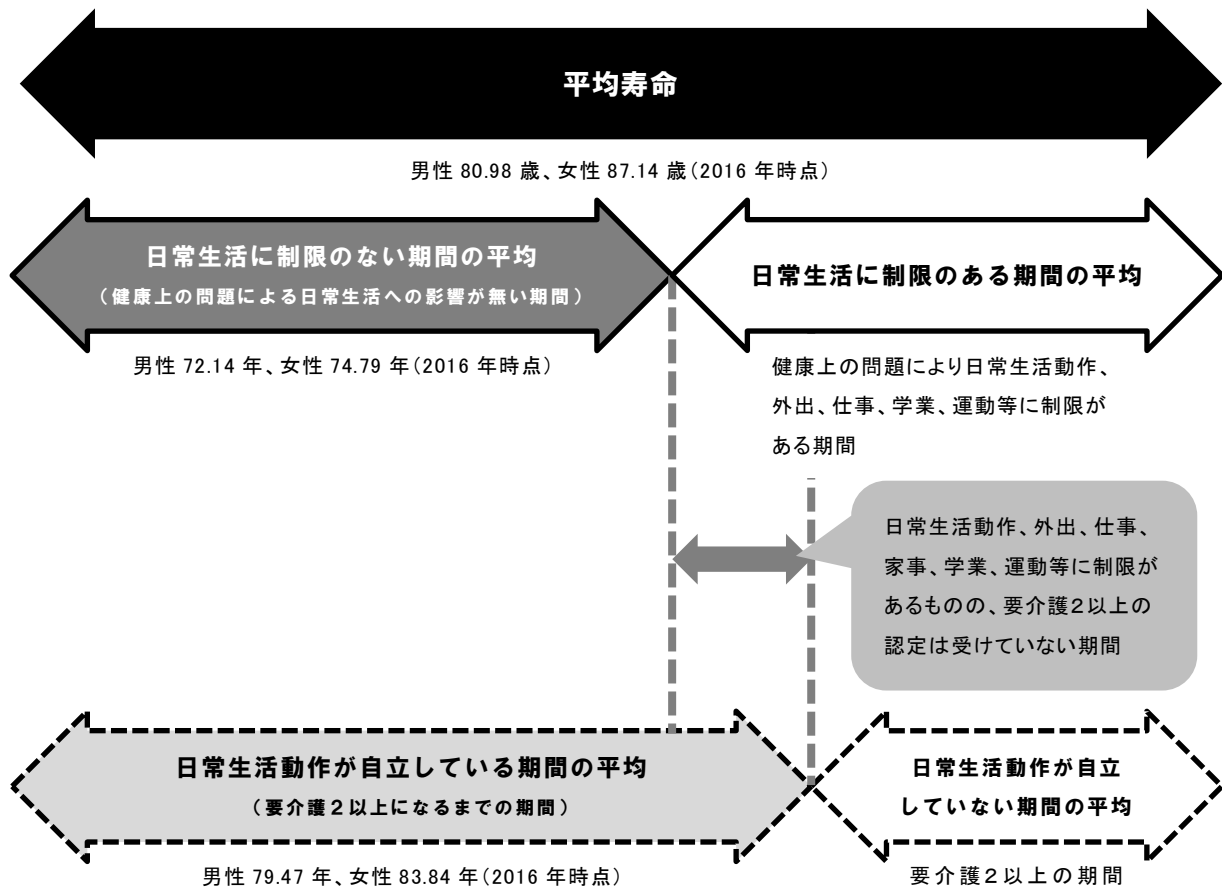
図表 4 要介護（要支援）認定者数－男女計－

	要介護度	単位	平成 27 年 3 月	平成 28 年 3 月	平成 29 年 3 月	平成 30 年 3 月	平成 31 年 3 月
大洲市	要介護 1 以下	人	1,468	1,552	1,614	1,563	1,686
		%	52.0	52.9	53.4	52.3	54.5
	要介護 2 以上	人	1,357	1,380	1,409	1,426	1,407
		%	48.0	47.1	46.6	47.7	45.5
愛媛県	要介護 1 以下	人	43,596	44,542	45,408	44,985	47,382
		%	49.3	49.6	50.0	49.8	51.1
	要介護 2 以上	人	44,805	45,325	45,432	45,359	45,296
		%	50.7	50.4	50.0	50.2	48.9
全国	要介護 1 以下	人	2,879,491	2,968,568	3,019,462	3,052,422	3,176,314
		%	47.5	47.8	47.8	47.6	48.3
	要介護 2 以上	人	3,178,597	3,235,355	3,300,268	3,360,338	3,406,102
		%	52.5	52.2	52.2	52.4	51.7

（出典）厚生労働省 介護保険事業状況報告（各年 3 月末の数値）

- 全体として、要支援・要介護認定者数自体は増加傾向にあるため、健康寿命の延伸に向けた取組が必要です。
- 子どもから、高齢者、障がいのある人など、すべての市民が運動・スポーツを通じて心身の健康を維持していくために、地域共生社会の実現が必要です。

図表5 日常生活の自立度を指標としたわが国の健康寿命※



(資料) 厚生労働省 「健康寿命のあり方に関する有識者研究会」 報告書

※健康寿命

「2040 年を展望した社会保障・働き方改革本部」(本部長：厚生労働大臣)の健康寿命延伸プラン策定にあたり、健康寿命の現状や課題について整理を行うため、厚生労働省内に設置された「健康寿命のあり方に関する有識者研究会」では、従来の健康寿命の指標であった「日常生活に制限のない期間の平均」に加えて、「日常生活動作が自立している期間の平均」を補完的指標として活用して「健康」という状態を表す指標としています。一方「不健康」な状態とは「要介護2以上」と定義しています。

3. 市内各地区における、運動・スポーツイベント

大洲市内の地区ごとに行われている運動・スポーツイベントには以下のようなものがあります。

図表 6 各地区スポーツの実態（令和元年 5 月調査）

No.	地区名	地区スポーツイベント	人口 H31. 4. 1 現在	参加者数
1	肱南	グラウンドゴルフ大会	3,821	26
		肱南レクバレー大会		50
2	肱北	肱北杯ソフトボール大会	9,019	200
		田口地区 親善球技大会		150
		地域対抗球技大会		123
		若宮 4 地区愛護班 親子レクリエーション大会		250
3	久米	地区スポーツ大会（ソフト）	2,650	73
		地区スポーツ大会（レクバレー）		49
		久米地区運動会		200
4	平	平地区球技大会（レクバレー・ソフト）	4,207	320
		平地区運動会		700
		高齢者グラウンドゴルフ大会		45
5	平野	球技大会（ソフト・レクバレー）	2,011	150
		平野ふれあい運動会		409
		平野町健康ウォーク大会		120
6	南久米	南久米地区親善ソフトボール大会	1,287	100
		南久米地区レクバレー大会		120
		南久米地区運動会		100
7	菅田	地区バレー大会	3,408	80
		町内ソフトバレーボール大会		80
		菅田地区運動会		100
8	大川	大川スポーツ祭（ソフト・ゲートボール）	747	53
		大川スポーツ祭（レクバレー）		43
		大川レクバレー大会		46
		大川地区運動会		50
9	柳沢	柳沢地区運動会	460	200
		柳沢地区グラウンドゴルフ大会		37
		柳沢地区レクバレー大会		58
		三世代グラウンドゴルフ大会		22
10	新谷	地区運動会	3,412	400
		新谷地区レクバレー大会		100
		レクバレー大会		150

No.	地区名	地区スポーツイベント	人口 H31.4.1現在	参加者数
11	三善	三善地区球技大会	866	245
		三善地区親善体育大会		300
		グラウンドゴルフ大会		45
		みよし健康マラソン大会		150
		高齢者スポーツ大会		45
		川下ゲートボール大会		45
		新春グラウンドゴルフ大会		45
12	八多喜	新春初詣ウォーク大会	1,650	150
		八多喜地区運動会		250
		球技大会 (レクバレー・ソフト・ゲートボール)		160
13	上須戒	体育レクリエーション	428	60
14	長浜	歩け歩け大会	1,936	200
		長浜地区運動会		200
15	沖浦	歩け歩け大会	643	54
		沖浦地区運動会		200
16	今坊	秋季運動会	382	200
17	櫛生	地区運動会	526	130
18	出海	出海地区運動会	430	100
19	大和	自治館対抗バレーボール大会	1,050	120
		大和地区運動会		300
20	豊茂	豊茂地区運動会	369	70
21	白滝	どろんこミニバレー大会	1,109	400
		白滝ミニバレーボール大会		150
		白滝体育祭		250
		柴地区秋季運動会		140
		柴地区歩こう大会		50
		白滝歩け走れ大会		98
22	肱川	鹿野川湖ゲートボール大会	2,044	104
		肱川クロッケー大会		48
		肱川グラウンドゴルフ大会		64
		肱川バレーボール大会		129
		肱川レクリエーションバレーボール大会		64
		肱川ウォークラリー大会		46
		市長杯グラウンドゴルフ大会		80
		肱川健康マラソン		158
23	河辺	分館対抗レクバレー大会	665	78
		分館対抗ゲートボール大会		43
		河辺地区体育協会長杯レクバレー大会		35
		幼小中合同運動会		30

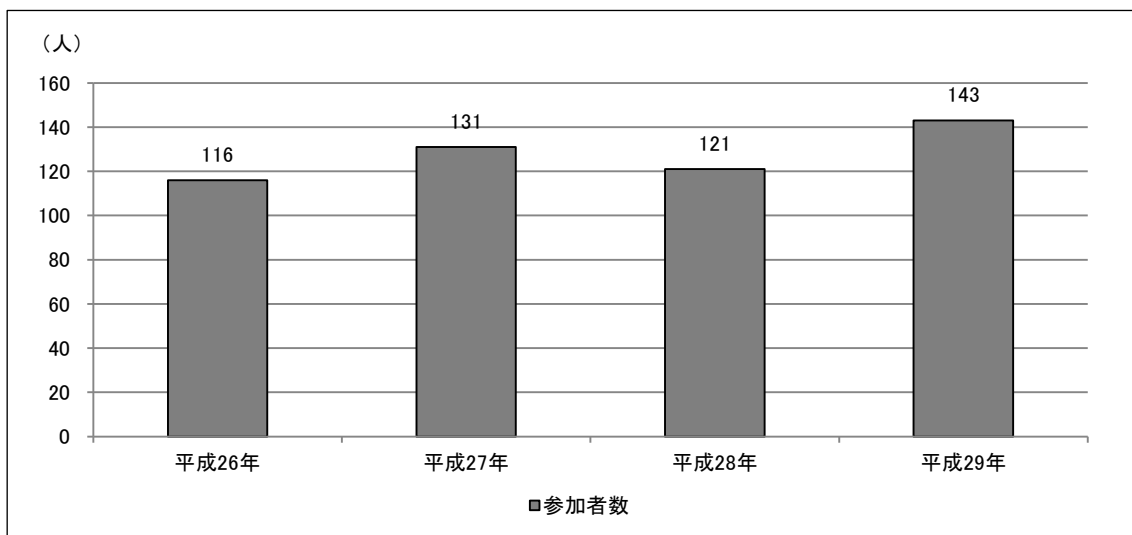
- 各地区の運動・スポーツイベントは各地域で活発に行われていますが、高齢者向けのスポーツイベントでは参加者が老人クラブ連合会会員のみとなってしまう傾向があります。
- 各地区の運動・スポーツイベントの参加者数は地区によって格差があり、スポーツ推進委員の参加がないイベントもあるため、スポーツ推進委員が積極的に活動できるよう支援していく必要があります。
- 市のヒアリング調査によると、老人クラブ連合会への加入者数は減少傾向にあり、これに伴い地域の運動・スポーツイベントへの参加者も減少傾向にあります。運動・スポーツのすそ野を広げるために、地域の運動・スポーツイベントの充実と、地域のスポーツ活動団体の活性化が必要です。



4. 市のスポーツイベント参加状況（一部抜粋）

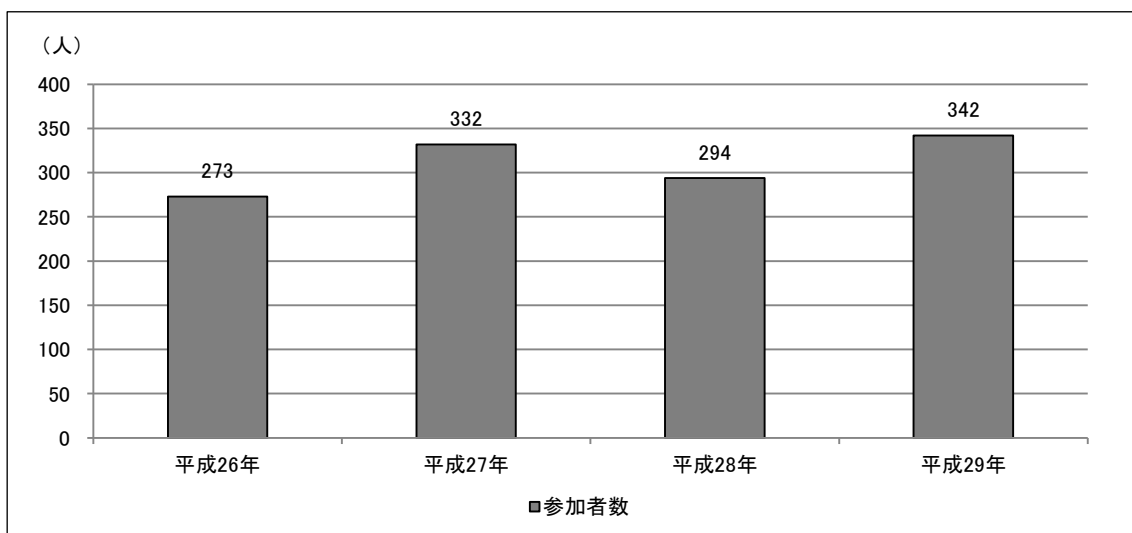
図表 7 大洲ジュニアトライアスロン参加者数

平成 7 年の第 1 回大会から 24 年間にわたり、多くの方にご協力頂き開催してまいりましたが、様々な要因により継続して開催することが困難となり、令和元年度の実行委員会において終了を決定しました。



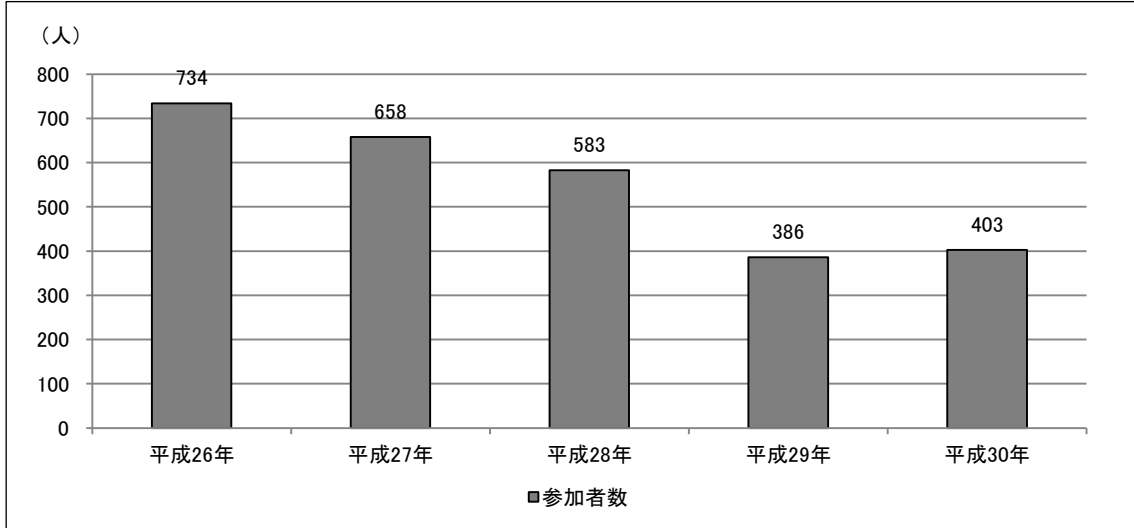
図表 8 大洲市カヌーツーリング駅伝大会参加者数

平成 30 年度の大洲市カヌーツーリング駅伝大会は、西日本豪雨災害の影響から中止となりましたが、参加者数は徐々に増えています。



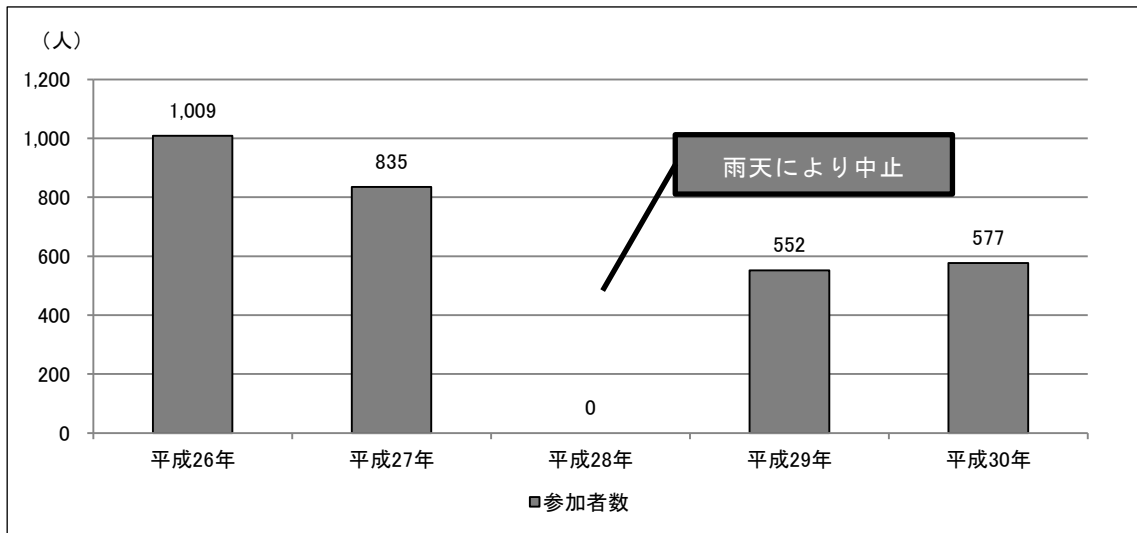
図表 9 大洲市駅伝大会参加者数

大洲市駅伝大会参加者数は年々減少傾向です。平成 29 年度に、コース内の法面が崩落したことにより、一部門の実施を見合わせた短縮コースとして開催しているため、平成 29 年度、30 年度の参加者が例年より少なくなっています。



図表 10 大洲市健康マラソン大会参加者数

大洲市民対象となる大洲市健康マラソン大会参加者数は、減少傾向にあります。少子高齢化の局面において、いかに参加者を募っていくかが課題です。



5. スポーツ少年団、中学校部活動等の状況

	バスケットボール	ソフトボール	サッカー	剣道	軟式野球	バレーボール	水泳	ソフトテニス	卓球	陸上
大洲南中	○	×	○		○	○女子		○	○女子	
大洲小	○	○								
久米小	○	○								
大洲北中	○	×	○	○	○	○女子	○	○	○	○
喜多小	○	○	○	○						
平小	○	○		○						
平野中	×	×	×		○	○女子				
平野小	○	○	○							
肱東中	×		○	×		○女子		○女子	○女子	
菅田小	○		○	○						
新谷中	○女子	×	×		○			○女子	○男子	
新谷小	○	○	○		○					
大洲東中		×	○	×	○			○女子		
三善小		○	○							
栗津小				○						
長浜中	×		○	×	○	○女子		○女子	○男子	
長浜小	○		○	○						
肱川中					○	○女子		○		
肱川小					○					
河辺中								○男子	○	
河辺小										
その他の スポーツ少年団	○男子					○	○			

(令和元年5月調べ)

- 市内の中学校部活動では、スポーツ少年団等で行っていたスポーツ種目が無いことがあります。
- 中学校部活動においても、幼少期からスポーツを切れ目なく継続的に行える環境づくりが重要となります。



第4章 アンケート結果で見る大洲市の現状

1. アンケート調査の概要

(1) アンケート調査の目的

「大洲市スポーツ推進計画」（令和2年度～令和6年度）策定のため、市内の小学生、中学生、高校生、一般の日頃の運動やスポーツへの取組状況などを把握し、計画づくりの基礎資料とするために「大洲市スポーツ推進計画策定のためのアンケート調査」（市民アンケート）を実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	小学生	中学生・高校生	一般
調査対象	市内の小学4年生	市内の中学1年生 高校1年生	20歳以上の市民
配布数	376	542	1,560
抽出法	各学校から抽出	各学校から抽出	年齢階層別に配布数を均等割りし、 無作為抽出
調査方法	学校での配布・回収	学校での配布・回収	郵送法
調査時期	令和元年7月	令和元年7月	令和元年7月
調査地域	大洲市全域	大洲市全域	大洲市全域

(3) 配布数及び回収結果

項目	小学生	中学生・高校生	一般
有効配布数	376	542	1,560
有効回収数	367	536	534
有効回収率	97.6%	98.9%	34.2%

■ 中高生アンケート回収数の内訳 ■

項目	中学生	高校生	中高生計	学年無回答	全体計
大洲市居住	345	134	479	3	482
その他	0	54	54	0	54
合計	345	188	533	3	536

(4) アンケート結果の基本的取扱いについて

- 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- 1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い設問については、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。(図表中の各比率は、nを100%として算出したものを表記しています)
- 高校生の結果については、居住地に「大洲市内」が選択されたものを抽出して集計しています。
- 一般、中高生、小学生のアンケート結果で、設問内容や選択肢が類似のものについて、比較可能なものは統合してグラフ化している場合があります。

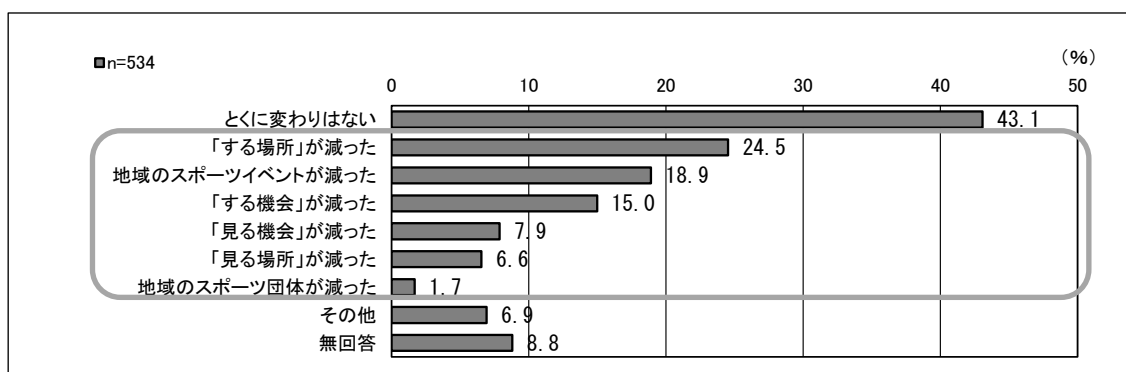


2. アンケート結果

(1) スポーツ機運の定着と地域振興に関すること

図表 1 1 西日本豪雨災害によるスポーツ環境への変化

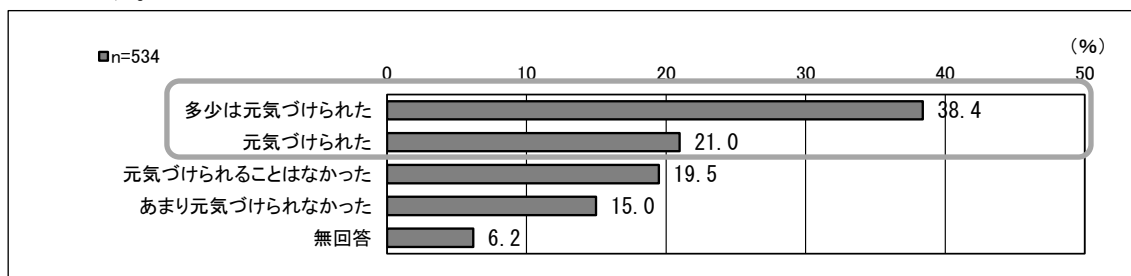
西日本豪雨災害によるスポーツ環境への変化は、「とくに変わりはない」(43.1%)、「する場所が減った」(24.5%)、「地域のスポーツイベントが減った」(18.9%)、「する機会が減った」(15.0%)、「見る機会が減った」(7.9%)、「見る場所が減った」(6.6%)、「地域のスポーツ団体が減った」(1.7%)の順となっています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 1 2 西日本豪雨災害後スポーツに元気づけられたこと

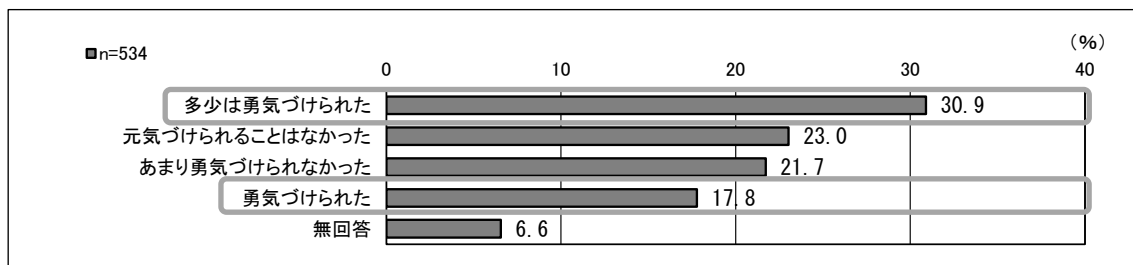
西日本豪雨災害後、スポーツに元気づけられたことがあったかどうかたずねたところ、「元気づけられた」、「多少は元気づけられた」が合わせて 59.4%、「あまり元気づけられなかった」、「元気づけられることはなかった」が合わせて 34.5%となっています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 1 3 西日本豪雨災害後、地域のスポーツ団体や選手の活躍に勇気づけられたこと

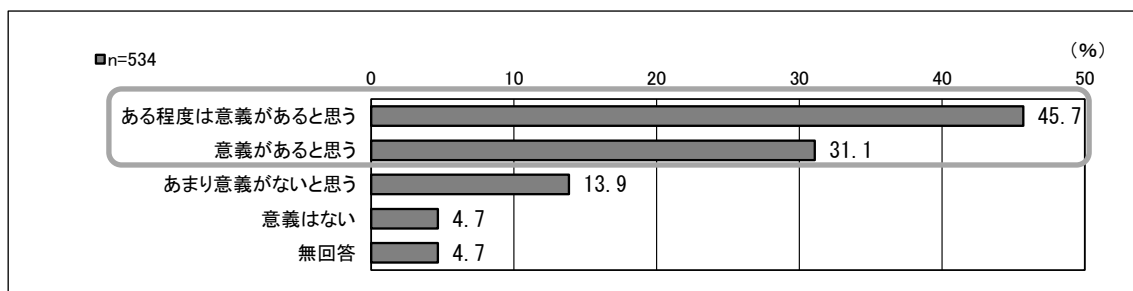
西日本豪雨災害後、地域のスポーツ団体や選手の活躍に勇気づけられたことがあったかどうかたずねたところ、「勇気づけられた」、「多少は勇気づけられた」が合わせて 48.7%、「元気づけられることはなかった」、「あまり勇気づけられなかった」が合わせて 44.7%となっています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 1 4 スポーツ活動は災害からの復興に意義があるか

スポーツ活動は災害からの復興に意義があるかどうかたずねたところ、「意義があると思う」、「ある程度は意義があると思う」が合わせて 76.8%、「あまり意義がないと思う」、「意義はない」が合わせて 18.6%となっています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 1 5 運動やスポーツを始めたきっかけ

	小学生 n=303	中学生 n=288	高校生 n=111	一般 n=317
第 1 位	身体を動かすことが好き	身体を動かすことが好き	身体を動かすことが好き	健康のため
第 2 位	体験してみたら面白かった	身体を鍛えたかった	身体を鍛えたかった	身体を動かすことが好き
第 3 位	友人・知人に誘われた	暇つぶし	暇つぶし	友人・知人に誘われた
第 4 位	家族に誘われた	体験してみたら面白かった	健康のため	身体を鍛えたかった
第 5 位	自分に向いていると思った	家族に誘われた	友人・知人に誘われた 家族に誘われた	自分に向いていると思った

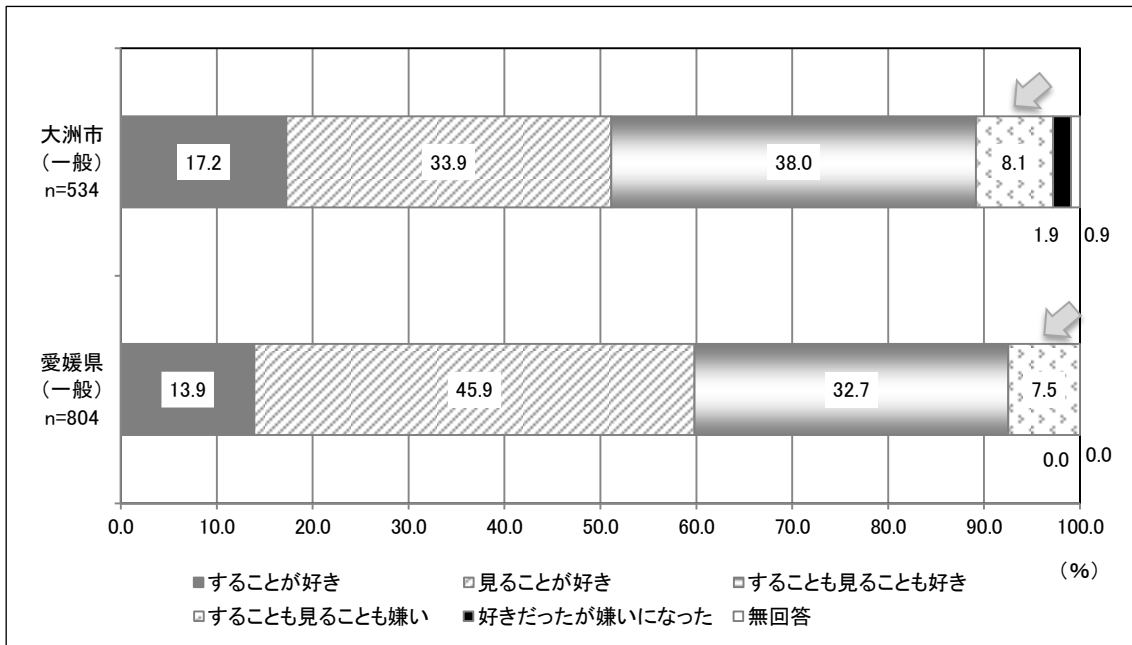
(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (小学生、中高生、一般アンケート)

図表 1 6 運動やスポーツをしていない理由

	小学生 n=55	中学生 n=53	高校生 n=23	一般 n=212
第 1 位	時間がない	面倒だから	時間がない	時間がない
第 2 位	体力的に余裕がない	時間がない	体力的に余裕がない	体力的に余裕がない
第 3 位	運動やスポーツが苦手	運動やスポーツが苦手	面倒だから	運動やスポーツが苦手
第 4 位	やりたいスポーツがない	つまらない	運動やスポーツが苦手	スポーツ以外に興味がある
第 5 位	怪我をするから つまらない	スポーツ以外に興味 がある	スポーツ以外に興味 がある	一緒にする仲間がいない

(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (小学生、中学生、一般アンケート)

図表 1 7 運動やスポーツをしたり見たりすることが好きか

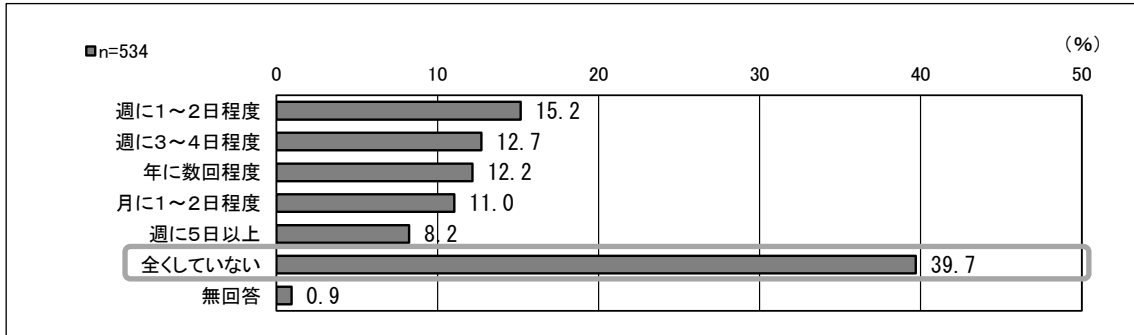


(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

愛媛県スポーツ推進計画 (平成 30 年 3 月) より

図表 18 自主的な運動やスポーツを行っている頻度

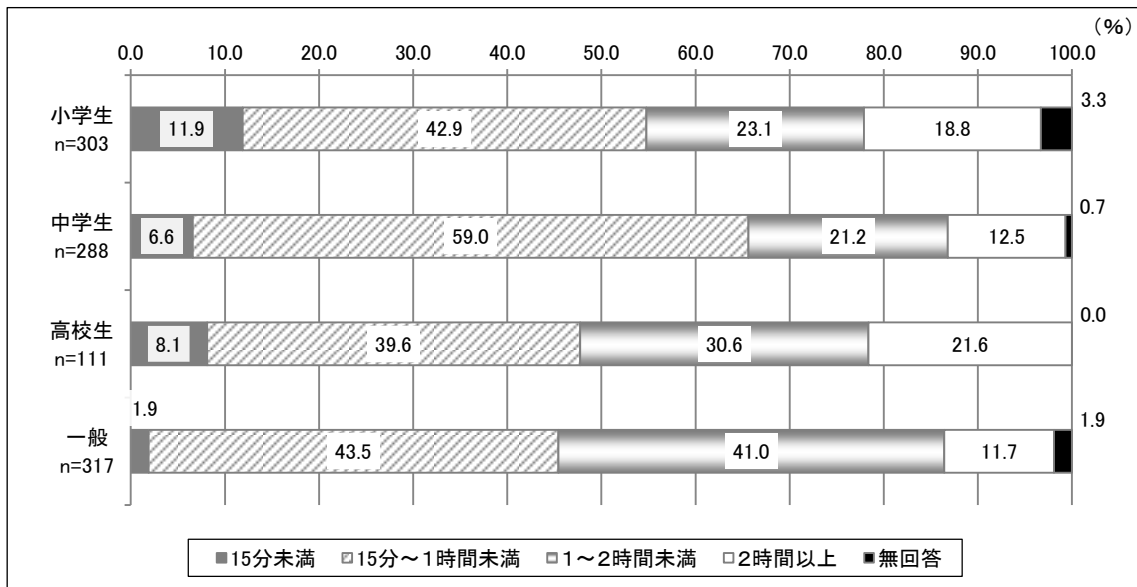
一般の運動・スポーツ実施率は、「週に1日以上」の割合が全体の36.1%となっています。一方で、「全くしていない」割合は39.7%で、「週に1日以上」自主的な運動やスポーツをしていると答えた割合を上回っています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 19 1回あたりの運動やスポーツにかかる時間

1回あたりの運動やスポーツにかかる時間をたずねたところ、下記のような結果となりました。



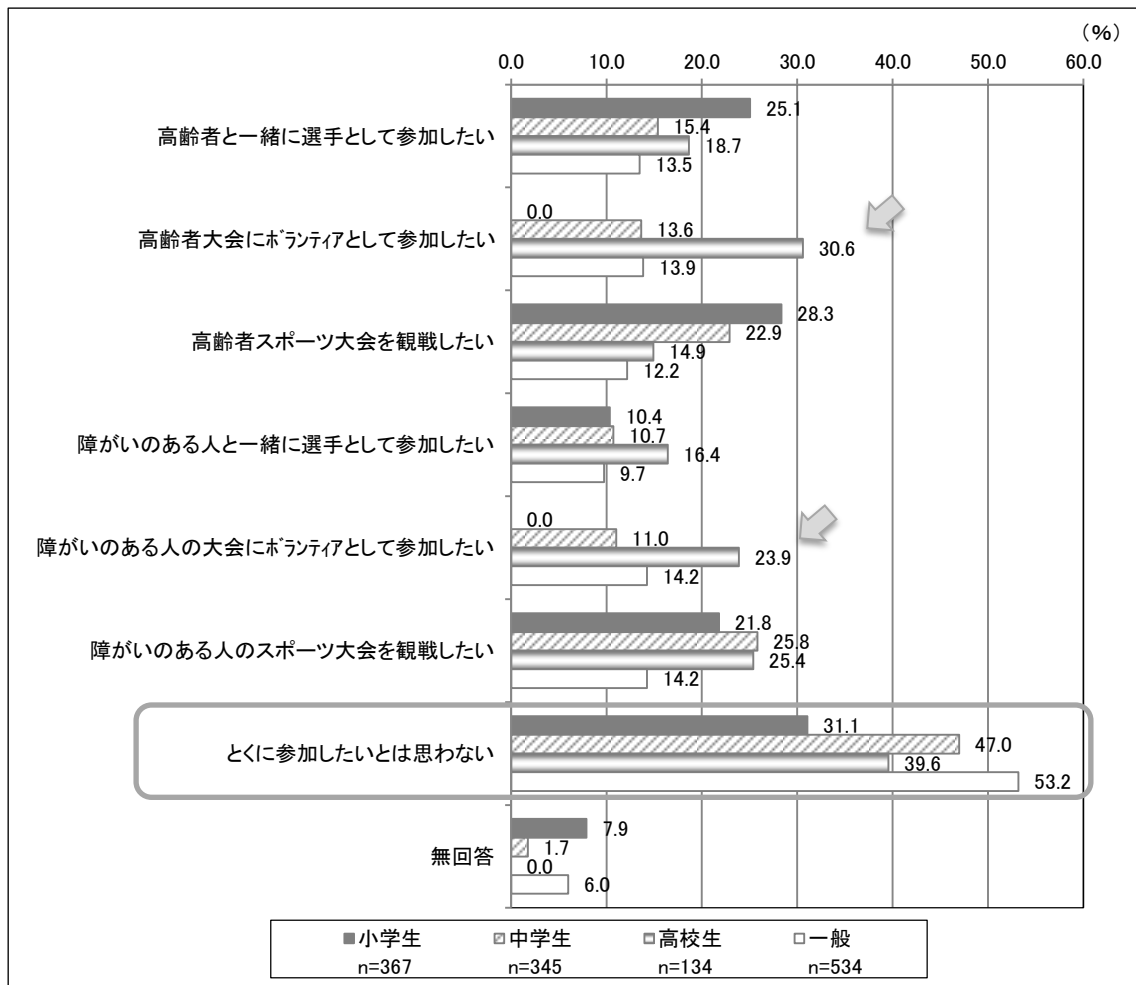
(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (小学生、中高生、一般アンケート)

(2) スポーツ参画人口の拡大に関すること

図表 20 障がいのある人や高齢者とのスポーツ大会への参加意向

障がいのある人や高齢者とのスポーツ大会への参加意向は、参加意向、観戦意向とともに全体として「とくに参加したいと思わない」の割合が高くなっています。

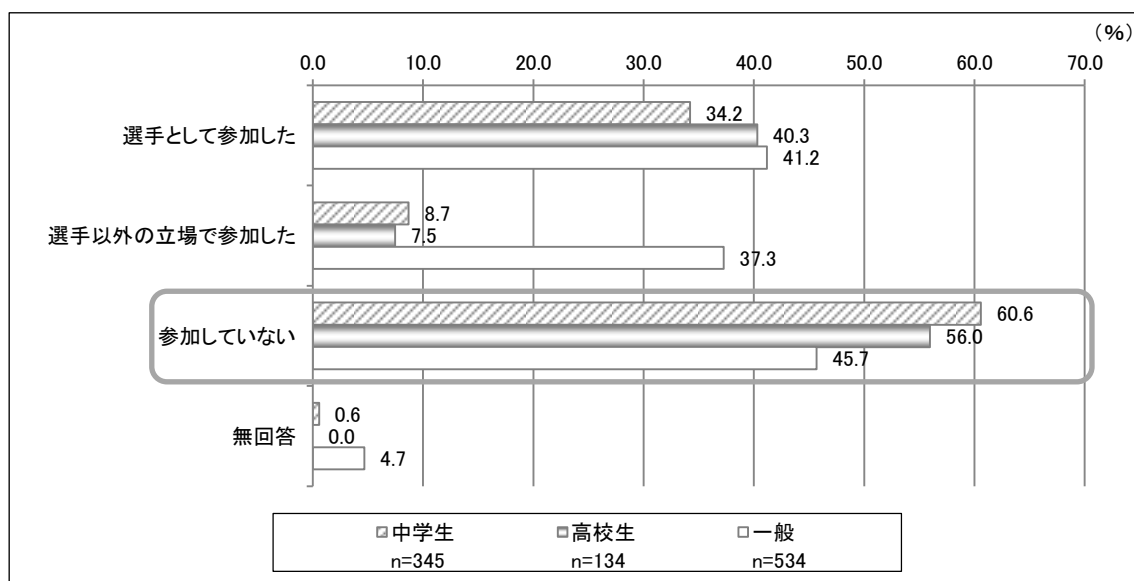
一方で、高校生においては、障がいのある人や高齢者とのスポーツ大会に「ボランティアとして参加したい」の割合が、他の世代よりも高くなっています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (小学生、中高生、一般アンケート)

図表 2 1 公民館や市内のスポーツイベントへの参加経験

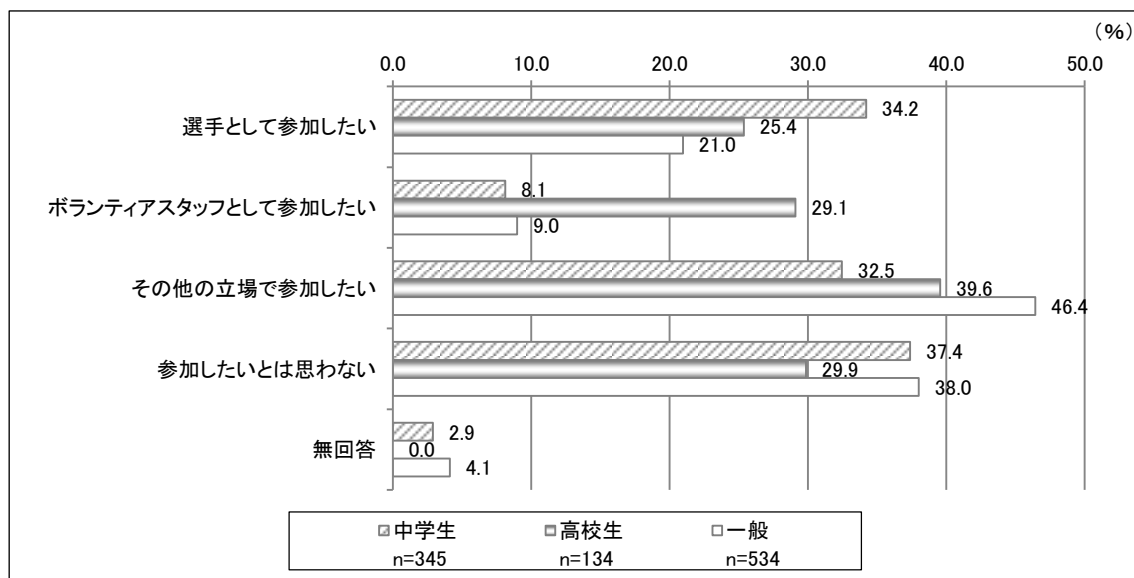
公民館や市内のスポーツイベントへの参加経験は、世代が若くなるほど「参加していない」の割合が高くなる傾向となっています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (中高生、一般アンケート)

図表 2 2 公民館や市内のスポーツイベントなどへの今後の参加意向

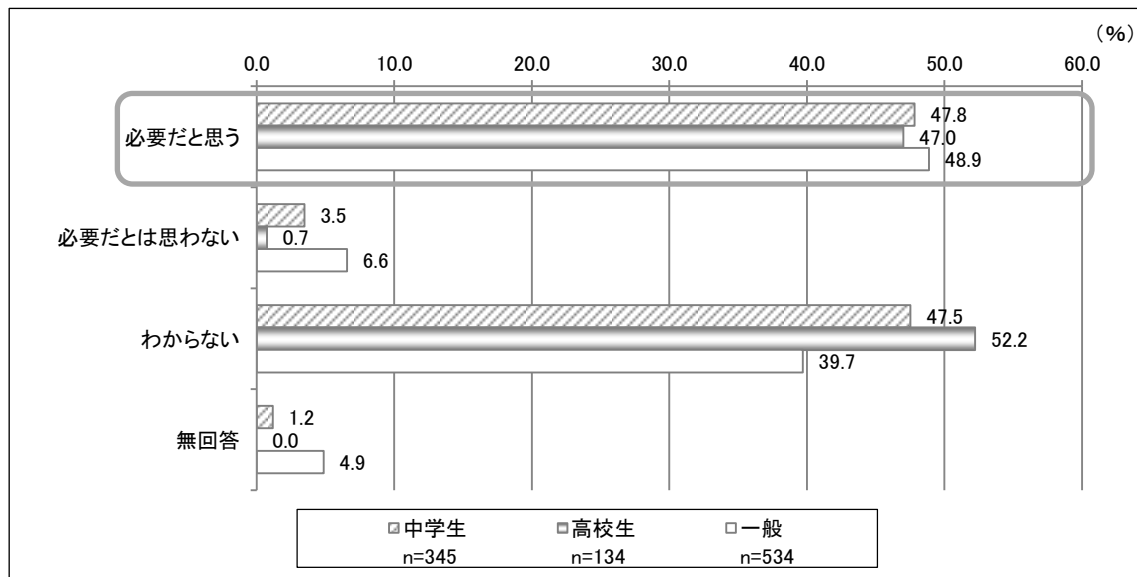
公民館や市内のスポーツイベントなどへの今後の参加意向は、世代が若くなるほど「選手として参加したい」の割合が高くなっています。また、高校生については「ボランティアスタッフとして参加したい」の割合が、他の世代よりも高いことがわかります。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (中高生、一般アンケート)

図表 2 3 公民館や市内のスポーツイベントなどは必要か

公民館や市内のスポーツイベントなどは必要だと思うかどうかたずねたところ、すべての世代において「必要だと思う」が、「必要だとは思わない」を大きく上回りました。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (中高生、一般アンケート)

なお、「必要だと思う理由」、「必要だとは思わない理由」としては、次のような意見が寄せられています。



■必要だと思う理由■

- スポーツを通して地域の方々と交流することは良いことだと思うから。
- 愛媛の野球を強くするためにもボーイズリーグ（硬式野球）は大事。
- 身体を動かす機会があっていいと思うから。
- 大洲市の復興、活性化のため。
- コミュニケーションの場であるので必要。
- 地域の方々と交流ができ、健康のために必要だと思うから。
- 災害時やいざという時のためにも、地域の人々との交流が必要だと感じる。
- 健康のために身体を動かすことが大切だと思う。
- 高齢者と若い世代との交流の場として必要。
- 青少年育成のため。
- スポーツに触れる機会をつくるため。
- 高齢者や子どもなどが、知らないスポーツに興味を持つことができると思う。
- 自治会の仲間のつながりをつくるため。
- 他者とのつながりを保つため。
- 地域の活性化につながるのではないかなと思うから。
- 他地区の方とも交流できる。
- 観戦していて楽しい。
- 地域のコミュニケーションのため。
- 田舎なので、少しはイベントがあった方が盛り上がる。
- 自治会ですること、出合いが増えるから。
- 参加したい人がいるから。
- ストレス解消、体力づくり、健康のため、みんなとの交流。
- 子どもがそのスポーツに興味もてるから。
- 一つの目的で地域の方との親睦を深められ、普段の生活にもプラスになる。
- 将来ブラスリートになりたいと思うきっかけになるかもしれないから。
- 大洲には“何も無い”ので、集客させるイベント、施設が必要でスポーツの振興は“何かをつくる”一つになると思う。
- 他人との交流、シニア層の健康維持のため。また、スポーツに関心を持てる。
- 年齢や職業が違う人が集まって、1つのボールを追いかけるのを見ていて、他ではない団結を見たので。そして、その後も、その時の話をして笑っているの。
- スポーツは人を元気にするものだと思うから。
- 地域の団結力を強める。
- 楽しみが増えて良い。
- 人口減少や高齢化が進んでいるなかで交流は必要だと思うから。
- スポーツを通した市民の健康促進のため。
- まちおこし。
- スポーツ大会は地域を元気にする。
- 練習するだけだとつまらない。やはり大会に出たい。
- イベント等に向けて練習することによって、メリハリもつくし、実力向上を目指して頑張れるから。
- 地域の人口が減少していくなかにおいては、地元の活動が重要であり、若者から老人までが楽しめる幅広い競技イベントを行うことで活性化を図る必要がある。
- スポーツをする1つのきっかけになるため。
- 大洲で開催されることによって、大洲のことを知ってもらえる機会ができるから。
- 学校（小学校）が一つ又一つと廃校になり、その地区はとても淋しくなっている。せめて中心地で皆が交流できればと思う。
- 子ども達が将来興味を持つスポーツを見つけることができるかもしれない。

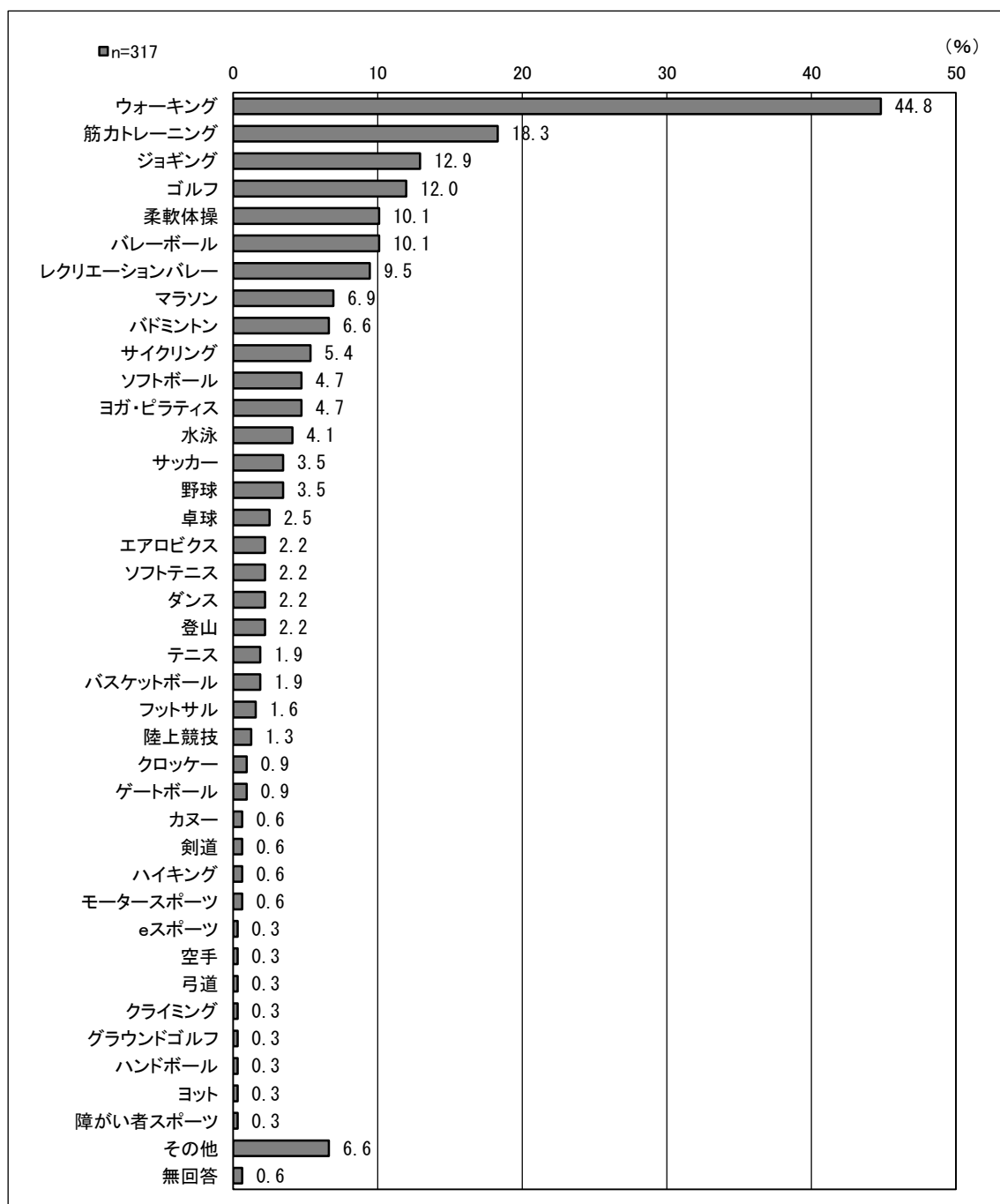
等

■必要だと思わない理由■

- 地域の高齢化に伴い、運動する人数が集まらない。
- 1人に対する負担が大きすぎる。
- スポーツではなく、他の交流イベントで良い。
- 自分が参加したいと思わないから。
- 選手をお願いすることが大変だと思うから。
- 人員の確保が大変。
- 役員など、お世話をする人が大変。
- 若い人が少ないから。
- 魅力に欠け、人が集まらないと思う。
- 個人の選択であり、行政の仕事ではないと思う。
- 自分自身がスポーツに興味がないから。
- 人集めが大変。
- 無理に参加させられて出て来られる方が多かった。
- つまらないから。
- プロや民間団体に任せたスポーツイベントなら良いが、小規模なスポーツ大会がいくつもあっても魅力を感じない。
- 人数合わせで出ただけだから。
- 開催するために、善意という名の労働力が必要となり、本来の目的からそれることがあるから。
- 参加する人が決まっている。
- 公民館主体は限界がある。わずらわしくなって来た、人集め等役員さんは大変。
- 参加する人が少ないと思う。
- 片寄った参加者になっているように思う。
- イベントや競技としてのスポーツは望みません。
- 人数不足のため、やりたくない人も参加しなければならず、練習にも時間をとられるため。
- 多人数でするスポーツには興味がない。
- 参加人数が少ないと思う。

等

図表 2 4 自主的に行っている運動・スポーツの種類

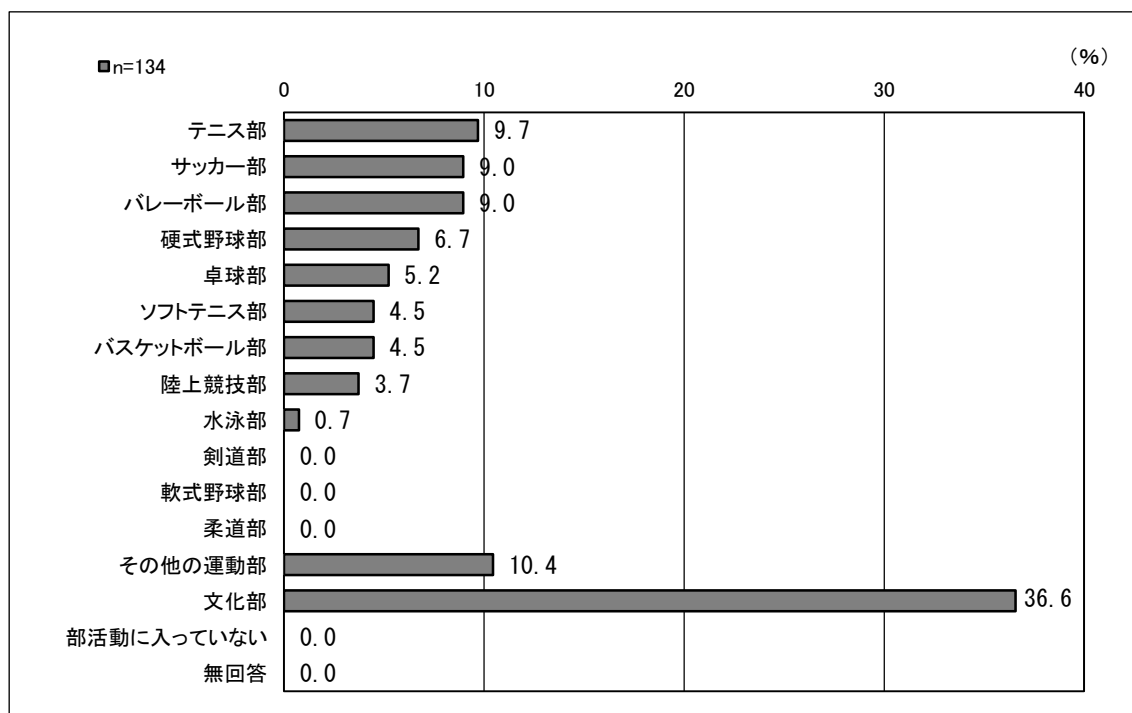


(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

(3) スポーツ環境の充実と競技スポーツの発展に関すること

図表 2 5 所属している部活動（高校生）

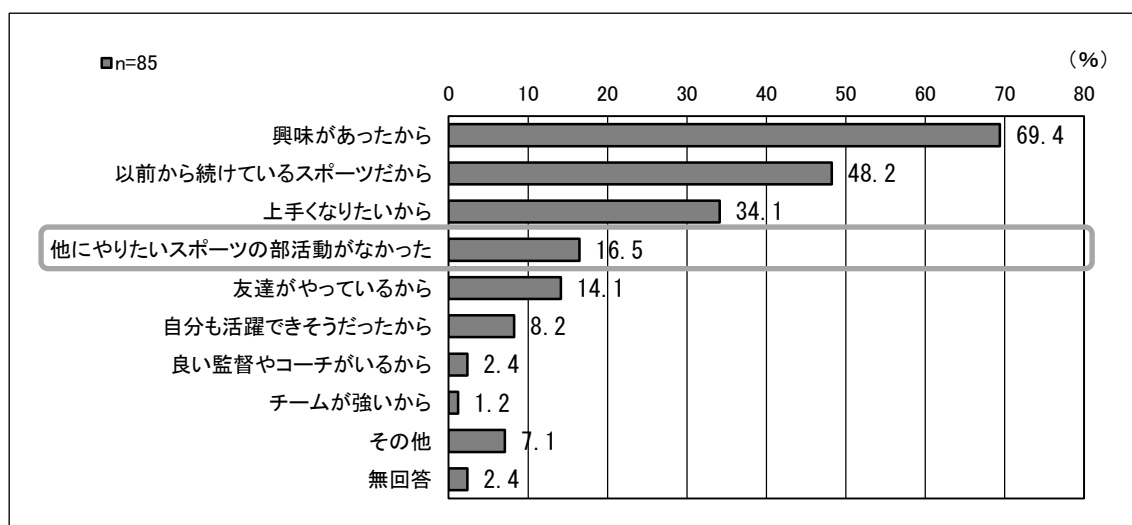
運動部に所属していると答えた割合は、全体の 63.4%でした。また、「その他の運動部」の自由記述欄には、「カヌー部」、「弓道部」、「バドミントン部」などが挙げられています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（中高生アンケート）

図表 2 6 現在所属している運動部に参加した理由（高校生）

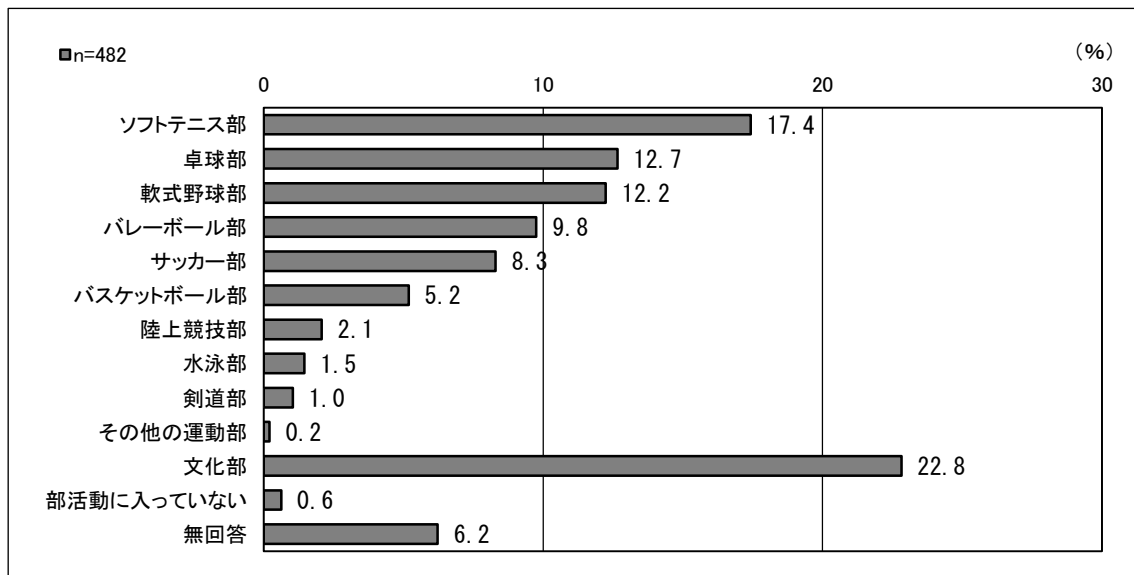
高校で、現在所属している運動部に参加した理由をたずねたところ、「他にやりたいスポーツの部活動がなかった」が 16.5%となっています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（中高生アンケート）

図表 2 7 中学校で所属している（所属していた）部活動（中高生共通）

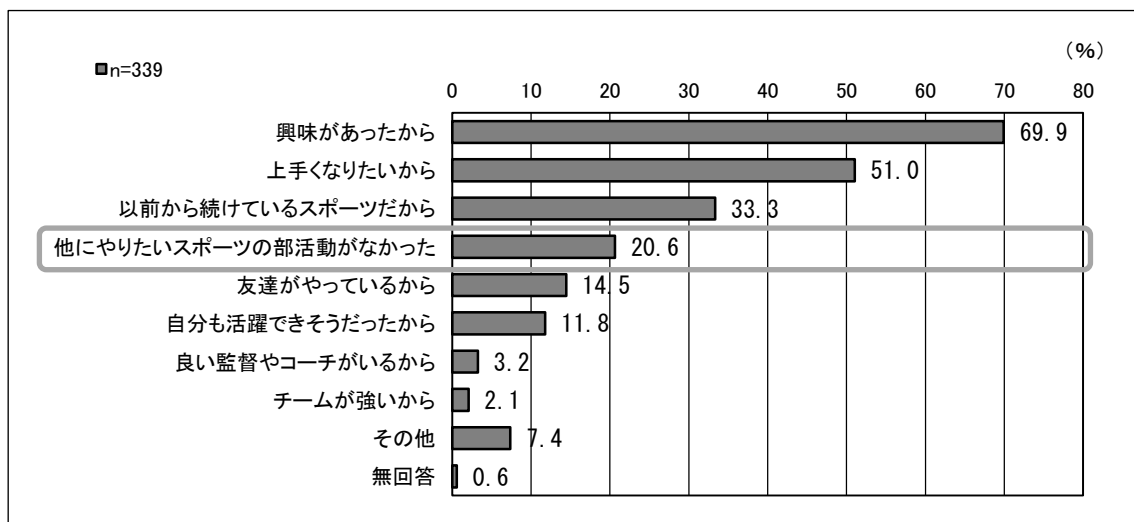
中高生に対して、中学校で所属している（所属していた）部活動をたずねたところ、中学校で、運動部に所属している（所属していた）と答えた割合は、全体の 70.4% となりました。



（資料）大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（中高生アンケート）

図表 2 8 中学校で運動部に参加した理由

中高生に対して、中学校で運動部に参加した理由をたずねたところ、「他にやりたいスポーツの部活動がなかった」が 20.6% となっています。



（資料）大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（中高生アンケート）

図表 2 9 他にやりたいスポーツがなかったと答えた者の、スポーツ活動の状況

運動部に所属している中高生のうち、「他にやりたいスポーツの部活動がなかった」と答えた者が、小学校の習い事等で行っていたスポーツとしては「サッカー」や「水泳」が挙げられています。

■高校の部活動で、「他にやりたいスポーツの部活動がなかった」と答えた高校生（大洲市在住）

現在の部活動	人	中学校の部活動	人	小学校 （習い事）	人	現在 （クラブチームなど）	人
テニス部	5	サッカー部	4	サッカー	5	所属していない	14
サッカー部	3	バレーボール部	3	水泳	3		
バレーボール部	3	軟式野球部	1	剣道	1		
ソフトテニス部	1	卓球部	1	ソフトボール	1		
卓球部	1	陸上競技部	1	バドミントン	1		
その他の運動部	1	文化部	1	バレーボール	1		

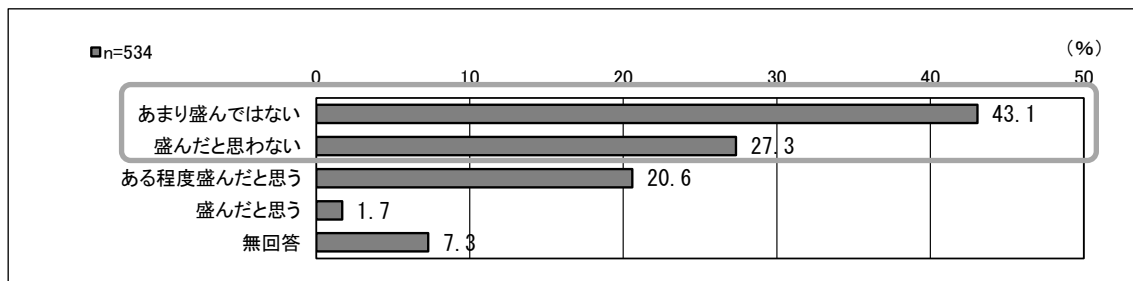
■中学校の部活動で、「他にやりたいスポーツの部活動がなかった」と答えた中学生

現在の部活動	人	小学校 （習い事）	人	現在 （クラブチームなど）	人
ソフトテニス部	14	水泳	4	所属していない	31
卓球部	8	サッカー	3	剣道	3
軟式野球部	6	剣道	1	サッカー	1
バレーボール部	4	ソフトボール	1	水泳	1
バスケットボール部	3	ミニバスケット	1	ダンス	1
サッカー部	3	空手	1	バレーボール	1
剣道部	2				
陸上競技部	2				
水泳部	1				

（資料）大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（中高生アンケート）

図表 3 0 市はスポーツ競技の指導や育成が盛んか

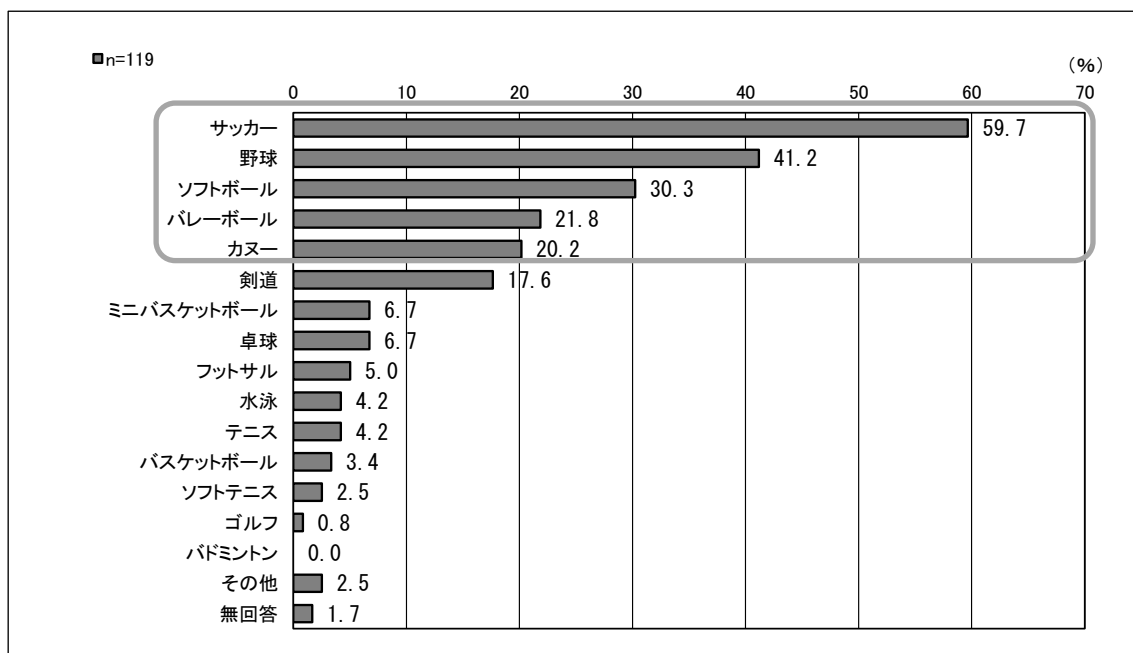
市はスポーツ競技の指導や育成が盛んだと思うかたずねたところ、「あまり盛んではない」、「盛んだと思わない」が 70.4%と 7 割の市民が「指導・育成が盛んではない」としています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 3 1 指導や育成が盛んだと思う分野

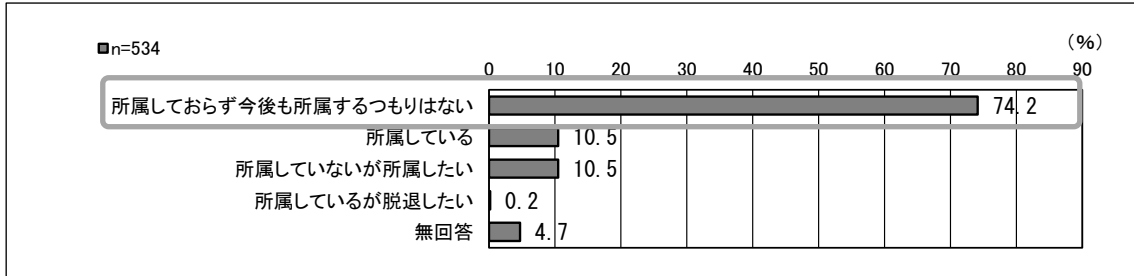
指導や育成が盛んだと思う分野をたずねたところ、1 位「サッカー」(59.7%)、2 位「野球」(41.2%)、3 位「ソフトボール」(30.3%)、4 位「バレーボール」(21.8%)、5 位「カヌー」(20.2%) などの順となりました。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 3 2 地域のスポーツ団体活動について

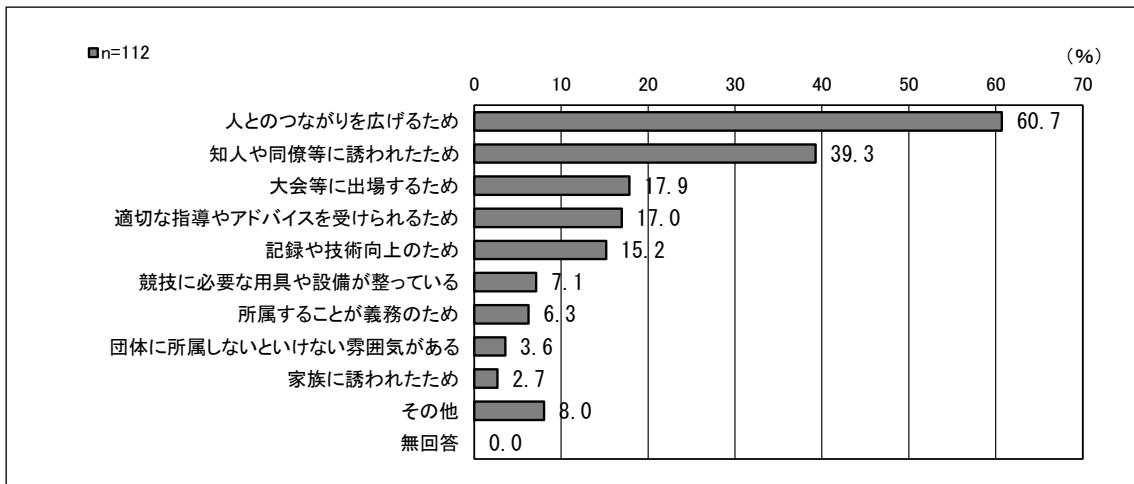
地域のスポーツ団体活動についてたずねたところ、「所属しておらず今後も所属するつもりはない」（74.2%）、「所属している」・「所属していないが所属したい」（同率 10.5%）、「所属しているが脱退したい」（0.2%）となりました。なお、所属している「団体名」の記述欄には、「大洲体協」、「大洲市軟式野球連盟」、「大洲市ソフトボール協会」、「大洲市レクバレー協議会」などが挙げられました。



（資料）大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（一般アンケート）

図表 3 3 団体に所属している、所属したい理由

団体に所属している（したい）理由をたずねたところ、「人とのつながりを広げるため」（60.7%）、「知人や同僚等に誘われたため」（39.3%）、「大会等に出場するため」（17.9%）、「適切な指導やアドバイスを受けられるため」（17.0%）、「記録や技術向上のため」（15.2%）、「競技に必要な用具や設備が整っている」（7.1%）、「所属することが義務のため」（6.3%）、「団体に所属しないといけない雰囲気がある」（3.6%）などの順となりました。

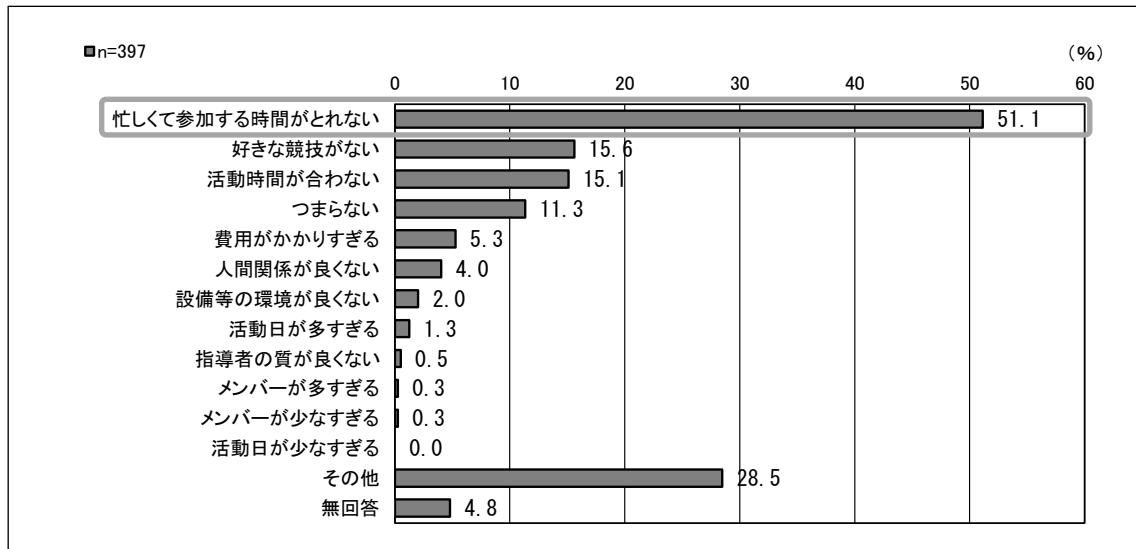


（資料）大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（一般アンケート）

図表 3 4 団体に所属しない、脱退したい理由

団体を脱退したい、団体に所属していない理由をたずねたところ、「忙しくて参加する時間がとれない」(51.1%) が他を引き離して最も多く、次いで「好きな競技がない」(15.6%)、「活動時間が合わない」(15.1%)、「つまらない」(11.3%)、「費用がかかりすぎる」(5.3%)、「人間関係が良くない」(4.0%) などの順となりました。

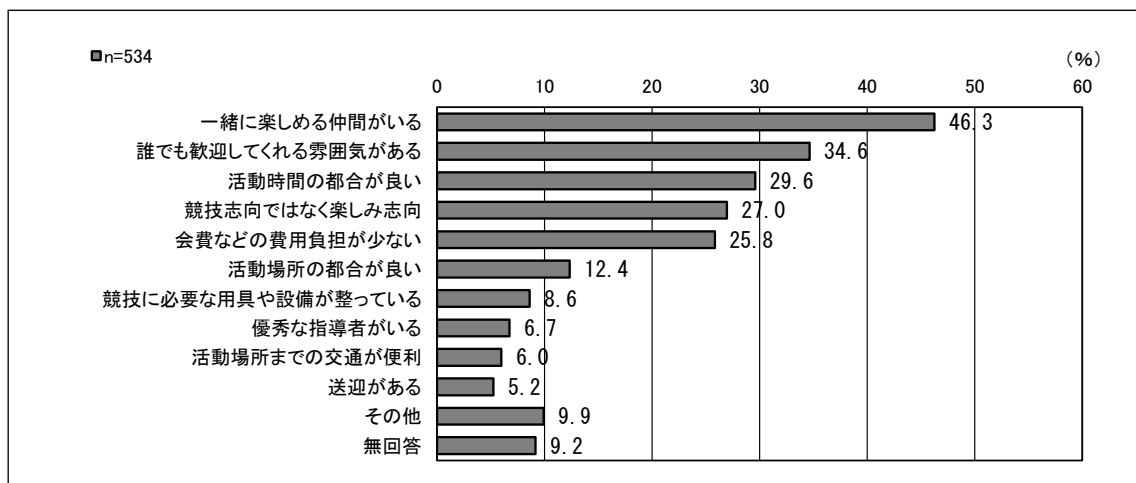
なお、「その他」の記述欄には、「時間に束縛されずに自由に活動したいから」、「高齢になったから」、「体調が悪いから」などが挙げられています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 3 5 どんな環境ならスポーツ団体や同好会等に所属したいか

どんな環境ならスポーツ団体や同好会等に所属したいかたずねたところ、「一緒に楽しめる仲間がいる」(46.3%)、「誰でも歓迎してくれる雰囲気がある」(34.6%)、「活動時間の都合が良い」(29.6%)、「競技志向ではなく楽しみ志向」(27.0%)、「会費などの費用負担が少ない」(25.8%)、「活動場所の都合が良い」(12.4%)、「競技に必要な用具や設備が整っている」(8.6%)、「優秀な指導者がいる」(6.7%)、「活動場所までの交通が便利」(6.0%)、「送迎がある」(5.2%) などの順となりました。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 3 6 大洲市でこれから強くなりそうなスポーツ（期待できるスポーツ）

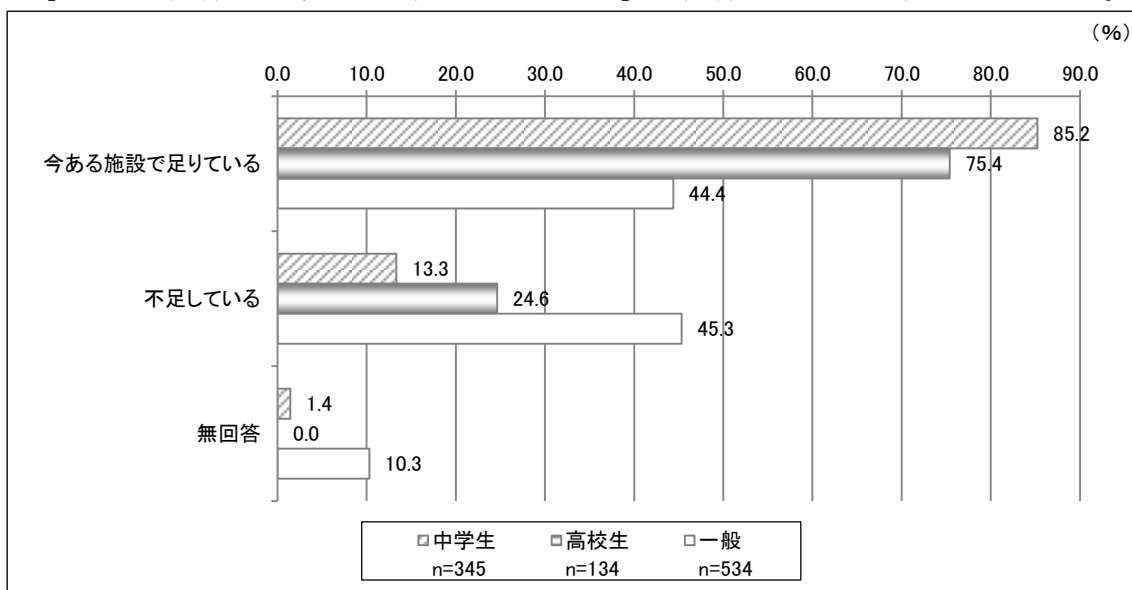
市でこれから強くなりそうなスポーツ種目としては、野球、サッカー、バスケットボールなど知名度の高い競技が上位に並ぶなか、中高生、一般において「カヌー」にも高い期待が寄せられる結果となっています。

	小学生 n=367	中学生 n=345	高校生 n=134	一般 n=534
第1位	サッカー	野球	カヌー	カヌー
第2位	野球	サッカー	サッカー	サッカー
第3位	水泳	バスケットボール	バスケットボール	剣道
第4位	ソフトボール	カヌー	野球	野球
第5位	バスケットボール テニス	水泳	バレーボール	ソフトボール

（資料）大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（小学生、中高生、一般アンケート）

図表 3 7 市内の運動やスポーツ施設の設置状況

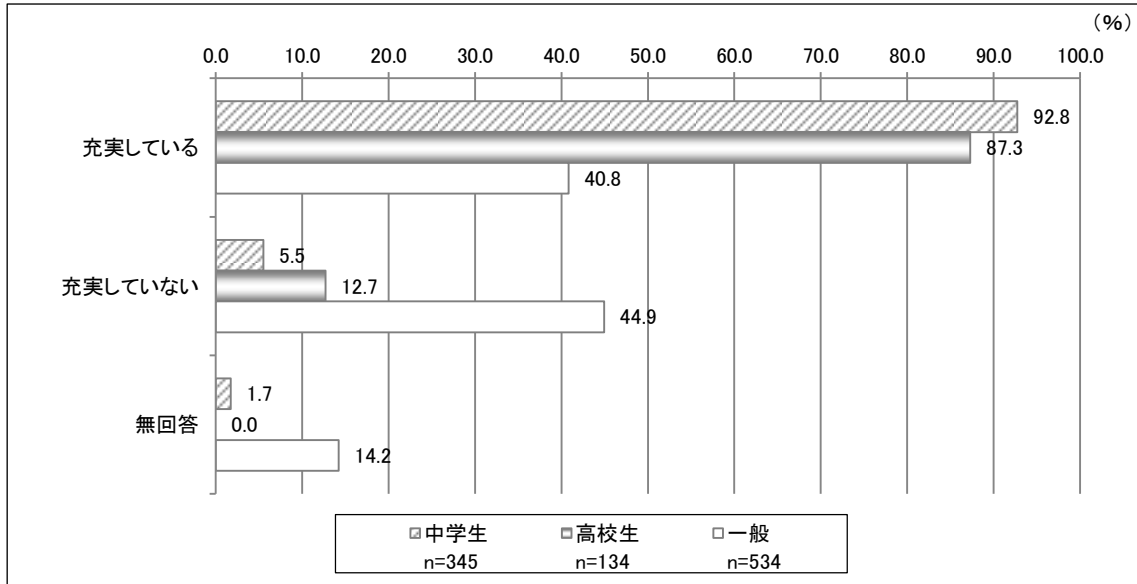
市内の運動やスポーツ施設の設置状況については、全体としては「今ある施設で足りている」とした割合が高くなっています。世代別で見ると、中高生では「今ある施設で足りている」とした割合が7～8割となっており、一般では「不足している」とした割合と「今ある施設で足りている」の割合がほぼ同水準となりました。



（資料）大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（中高生、一般アンケート）

図表 3 8 市内の運動やスポーツ施設の環境について

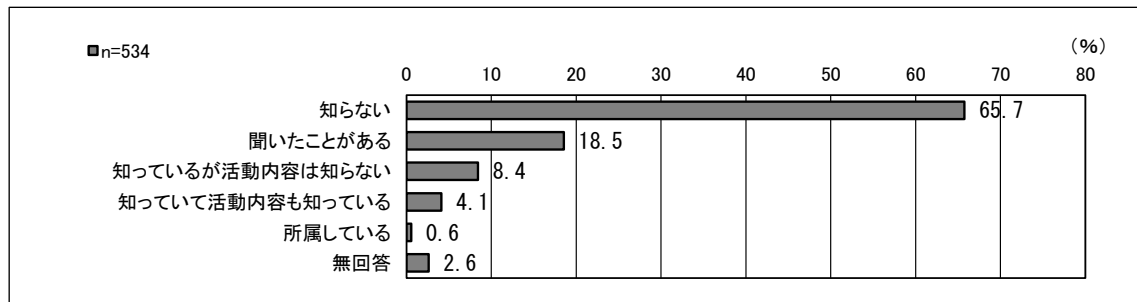
市内の運動やスポーツ施設の環境については、全体としては「充実している」とした割合が高くなっています。世代別で見ると、中高生では「充実している」とした割合が8～9割となっており、一般では「充実していない」とした割合が「充実している」の割合を若干上回りました。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (中高生、一般アンケート)

図表 3 9 総合型地域スポーツクラブの認知状況

総合型地域スポーツクラブの認知状況は「聞いたことがある」を含めても 31.6%と、あまり認知されていないことがわかります。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (一般アンケート)

図表 40 総合型地域スポーツクラブの認知状況（年代別）

総合型地域スポーツクラブの認知状況は、全体として 40 代が最も多くなっています。

nは対象者の総数		合計	所属している	知っていて活動内容も知っている	知っているが活動内容は知らない	聞いたことがある	知らない	無回答
年齢	20 代	66	0	2	2	14	48	0
	n=66	100.0	0.0	3.0	3.0	21.2	72.7	0.0
	30 代	84	0	3	5	21	54	1
	n=84	100.0	0.0	3.6	6.0	25.0	64.3	1.2
	40 代	85	1	9	13	23	38	1
	n=85	100.0	1.2	10.6	15.3	27.1	44.7	1.2
	50 代	92	1	2	7	17	64	1
	n=92	100.0	1.1	2.2	7.6	18.5	69.6	1.1
	60 代	100	0	3	9	13	70	5
	n=100	100.0	0.0	3.0	9.0	13.0	70.0	5.0
	70 代	104	1	3	9	11	74	6
	n=104	100.0	1.0	2.9	8.7	10.6	71.2	5.8
	不詳	3	0	0	0	0	3	0
	n=3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

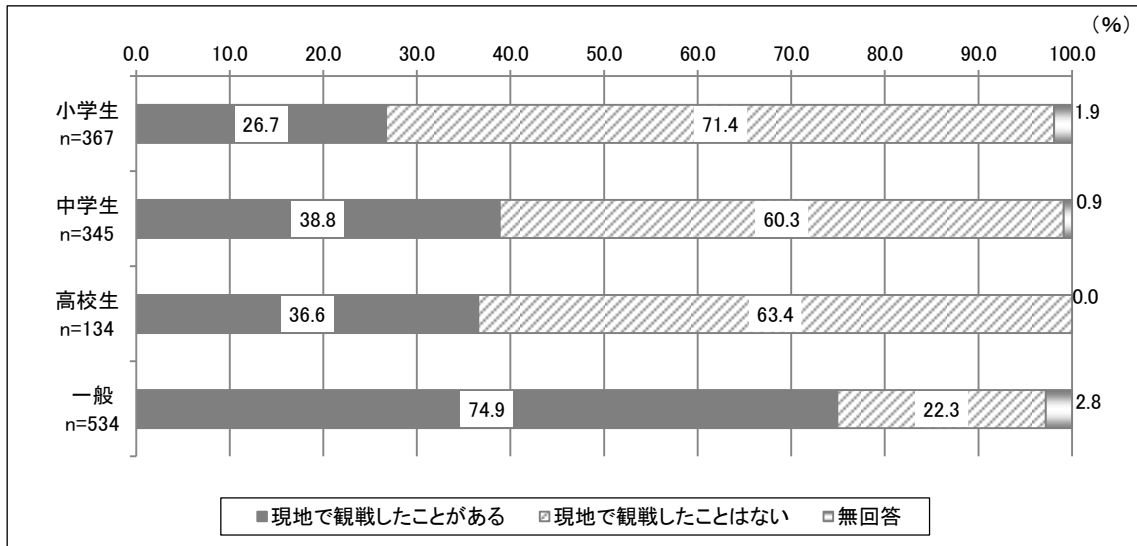
（資料）大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査（一般アンケート）



(4) スポーツを通じた交流の促進と地域活性化に関すること

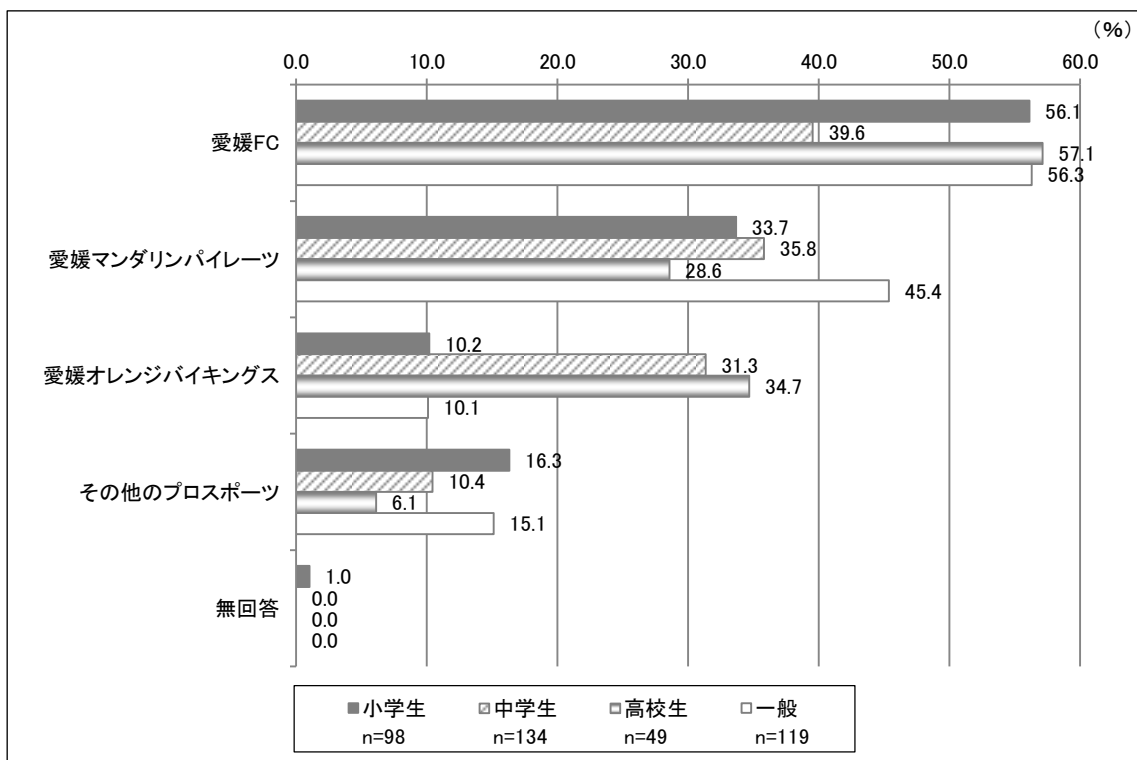
図表 4 1 県のプロスポーツ球団の試合の観戦状況

県のプロスポーツ球団の試合の観戦状況を見てみると、「現地で観戦したことがある」割合が一般では74.9%と高くなっているものの、小学生、中高生については一般と比べて低くなっています。



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (小学生、中高生、一般アンケート)

図表 4 2 観戦したことがある球団



(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査 (小学生、中高生、一般アンケート)

図表 4 3 観戦していない理由

	小学生 n=262	中学生 n=208	高校生 n=85	一般 n=400
第1位	選手をよく知らない	興味がない	興味がない	興味がない
第2位	テレビや動画の方が見やすい	選手をよく知らない	テレビやラジオ、インターネットの方が、情報が多い	テレビやラジオ、インターネットの方が、情報が多い
第3位	その競技や球団のことをよく知らない	その競技や球団のことをよく知らない	選手をよく知らない	その競技や球団のことをよく知らない
第4位	試合スケジュールを知らない	試合スケジュールを知らない	その競技や球団のことをよく知らない	選手をよく知らない
第5位	興味がない	テレビやラジオ、インターネットの方が、情報が多い	試合スケジュールを知らない	人混みが苦手

(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査(小学生、中学生、一般アンケート)

図表 4 4 市のスポーツ行政に期待すること

	表の値は割合表記(%) nは対象者の総数	中学生 n=345	高校生 n=134	一般 n=534
1	子どものスポーツの推進	 67.0	 65.7	 63.1
2	高齢者スポーツの推進	25.5	25.4	24.2
3	障がい者スポーツの推進	26.7	27.6	14.8
4	生涯スポーツの推進	3.5	3.7	21.2
5	健康増進活動の推進	9.3	23.9	 40.3
6	ニュースポーツの周知、推進	5.8	4.5	4.1
7	社会体育施設の設備の充実	8.1	17.9	23.8
8	民間施設の利用に対する働きかけ	2.3	4.5	9.7
9	部活動の整備、充実	 27.2	 44.8	18.7
10	スポーツ指導者の育成	20.0	24.6	 26.6
11	スポーツ競技団体の支援	19.1	11.9	12.7
12	特定競技に特化したスポーツのブランド化	5.2	3.7	3.9
13	スポーツ体験イベントの開催	 29.0	 29.9	21.3
14	スポーツ交流イベントの開催	22.0	24.6	17.4
15	質の高いスポーツ競技大会の誘致	8.1	11.2	16.5
16	スポーツを通じた観光客の呼び込み	13.6	16.4	10.1
17	その他	0.6	1.5	1.7
18	無回答	2.0	2.2	6.6
	全体	100.0	100.0	100.0

(資料) 大洲市スポーツ推進計画のためのアンケート調査(小学生、中学生、一般アンケート)

第5章 施策の展開

1. スポーツで、おおずを元気にするんよ！ (スポーツ機運の定着と地域振興)

(1) スポーツを通じた災害復興

❖ 現状と課題

- 平成30年7月、西日本地域を襲った記録的な豪雨により、大洲市では広範囲にわたり多数の浸水被害や土砂災害が発生し、5人（関連死1名含む）の尊い命が失われるなど甚大な被害を受けました（平成30年7月豪雨災害）。現在、市の復興計画に従って、まさに復興の最中にありますが、市民が負った心身、財産等への傷は深く、災害から1年半を経過してもなお、元の生活に戻ることができない状態の市民がおられます。
- このような中、平野運動公園の陸上競技場、野球場、自由広場は、災害廃棄物の仮置場に、徳森公園の多目的グラウンドと大駄場ふれあい広場は、被災者の応急仮設住宅の敷地となるなど、長期的に市民が集い、ふれあい、楽しむことができる場所や機会が減ってしまっている状況が市民アンケートからもうかがえます。

❖ 主な取組

項目	内容
陸上競技場と野球場の復旧	災害廃棄物の仮置場となった平野運動公園の陸上競技場、野球場を令和2年度中に天然芝にて復旧し、適切な維持管理を図りながら、市民がスポーツと触れ合う場所や機会を提供します。
徳森公園の多目的グラウンドと、大駄場ふれあい広場の復旧	被災者の応急仮設住宅の敷地となった徳森公園の多目的グラウンドと大駄場ふれあい広場については、応急仮設住宅の供与終了後に、市民がスポーツと触れ合う場所や機会を提供します。
災害復興スポーツイベントの開催	平野運動公園の陸上競技場と野球場が復旧した際には、八幡浜・大洲地区広域市町村圏組合（以下「組合」という）の構成市町の児童を対象とした災害復興スポーツイベントを開催します。
災害復興へ向けた機運醸成	大洲市カヌーツーリング駅伝大会、大洲市駅伝大会、大洲市健康マラソン大会等において「がんばろう！大洲」の冠付けを行い、大会会場には「がんばろう！大洲」ののぼり旗を掲げるなど、スポーツを通して災害復興へ向けた機運の醸成を図ります。

(2) スポーツ推進体制の充実

❖ 現状と課題

- 市民アンケートによると、スポーツを「することも見ることも嫌い」とする割合は、愛媛県の「県民のスポーツに関する意識調査」による結果と比べて若干高くなっています。
- 市民が生涯を通じて運動やスポーツに親しむことができるような環境づくり、スポーツの楽しさの啓発や、スポーツ参画機運の醸成が必要です。

❖ 主な取組

項目	内容
スポーツイベントの情報提供	拠点となるスポーツ施設において開催されるスポーツイベントの情報を、ホームページを通じて積極的に提供します。
地区スポーツ参画人口の拡大に向けた環境づくり	「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で、子どもから高齢者まで誰もが気軽に運動・スポーツに参画しやすく、楽しめる「生涯スポーツ」の推進に向け、多様なスポーツイベントを実施し、また各種スポーツを体験できる機会を提供します。
生涯スポーツ・競技スポーツの推進	生涯スポーツは、地域スポーツ協会とスポーツ推進委員会を中心に、地域でのスポーツを精査し、継続的に行うスポーツの推進に努めます。 また、競技スポーツは、市スポーツ協会を中心に、競技性の高いスポーツ活動体制の強化を支援し、競技人口の拡大に努めます。
スポーツ施設利用方法についての検討	市民がスポーツ施設を気軽に利用できるよう、インターネット等による施設利用申請予約が可能になるよう検討します。

❖ 数値目標

項目	令和元年度	令和6年度
スポーツを「することも見ることも嫌い」な割合	8.1%	5%

2. スポーツに親しむ人を増やすんよ！ (スポーツ参画人口の拡大)

(1) 子どもから高齢者、障がいのある人のスポーツ活動を通じた、地域共生社会の実現

❖ 現状と課題

- 市民アンケートによると、運動やスポーツをしていない理由は、小学生では「やりたいスポーツがない」、一般では「一緒にする仲間がいない」などが上位にランクインしていますが、「自主的な運動やスポーツを始めたきっかけ」についての外的要因は、「体験してみたら面白かった」、「友人・知人に誘われた」ことが上位にランクインしていることから、友人・知人とで、スポーツを体験できる場が必要であることがうかがえます。
- 市民アンケートによると、高齢者や障がいのある人とのスポーツ大会への参加意向・観戦意向は、いずれも全体として「とくに参加したいと思わない」の割合が高くなっています。
一方、参加意向のあった者のうち、高校生では「ボランティアとして参加したい」とする割合が高くなっています。スポーツへの関わり方として「ささえる」スポーツ参画機会の提供が必要です。
- 障がい者団体へのヒアリング調査によると、スポーツを行わない理由として、「できるスポーツが限られている」、「誘われても、相手に迷惑をかけるのではないかと気を遣ってしまう」、「スポーツをする場所がない」などの意見が寄せられています。
地域共生社会実現のために、誰もが参加できるスポーツイベントの検討が必要です。

❖ 主な取組

項目	内容
スポーツを体験できる機会の提供	市民アンケートによると、スポーツを始めるきっかけについては、スポーツを体験できる場が必要であることがうかがえるため、子どもから高齢者まで楽しむことができる各種スポーツを体験できる機会を提供します。
スポーツに様々な形で参加できる体制づくり	市民が、高齢者や障がいのある人のスポーツ大会に「一緒に競技する」「大会を観戦する」「ボランティアとしてサポートする」といった様々な形で参加できる大会の開催情報の周知に努めます。 また、公民館におけるスポーツ行事やレクリエーション活動等については、地域スポーツ協会、スポーツ推進委員と連携して、子どもから高齢者、障がいのある人、誰もが「する」「みる」「ささえる」といった様々な形で参加できる体制づくりに努めます。

❖ 数値目標

項目	令和元年度	令和6年度
市内各地区における、運動・スポーツイベントへの参加の割合	22.4% (平成30年度)	27%
障がいのある人や高齢者とのスポーツ大会に「参加したい」割合	小学生 61.0% 中学生 51.3% 高校生 60.4% 一 般 40.8%	小学生 66% 中学生 56% 高校生 65% 一 般 45%



（２）心身の健康維持と体力向上（健康寿命の延伸）

❖ 現状と課題

- 本市では、要介護２以上の認定者数割合（％）が全国平均及び県平均を下回っていますが、総数としては一貫して増加傾向にあります。（厚生労働省介護保険事業状況報告※７ページ参照）超高齢社会が進展するなか、一日でも長く自立した生活を送れるような支援が必要です。
- 心身の健康維持と体力向上のためには、日頃からの運動習慣が重要となります。特に、生活するうえで欠かすことができない「身体を動かす」という軽度な運動やスポーツを、自主的に行うことができる環境づくりが必要です。

❖ 主な取組

項目	内容
健康寿命延伸プロジェクトの立ち上げ	本市においては、令和２年度から全庁を挙げて、健康寿命の延伸に向けて取り組みます。
トレーニング教室の開催	スポーツインストラクターによる、大洲市総合体育館内に設置しているトレーニング器具を活用したトレーニング教室を開始します。
介護予防体操（100歳体操）の普及促進	日常生活に必要とされる動作や、それらに必要な筋力アップに効果がある「100歳体操」を、市民が自主的に介護予防体操として行えるように、各地区及び大洲市総合体育館等において環境づくりに努め、普及を促進します。

❖ 数値目標

項目	令和元年度	令和６年度
自主的な運動やスポーツを「全くしていない」割合（一般アンケート）	39.7%	34%

3. スポーツを気持ちよくできるようにするんよ！ (スポーツ環境の充実と競技スポーツの発展)

(1) 切れ目ないスポーツ競技活動の支援

❖ 現状と課題

- 市民アンケートによると、市内の中学校、高校の運動部に参加した理由として、「他にやりたいスポーツの部活動がなかった」とする回答があります。
- 市内の中学校部活動には、小学生の時期にスポーツ少年団等で行っていたスポーツ種目が無いことがあります。
- 上記のことから、中学校の部活動については、少子化の進行や、顧問の配置が困難な状況となり、やりたいスポーツ種目や、小学生の時期から行っていたスポーツ種目が継続して行えない環境となっており、中学校の部活動のあり方については、方向性を検討する時期にきており、生徒が、切れ目なくスポーツ競技活動を行える支援が必要です。
- 本市では、総合型地域スポーツクラブが子どもから大人まで誰もが気軽にスポーツを楽しめる活動をしています。市民アンケートによると、その認知状況は低くなっています。

❖ 主な取組

項目	内容
学校教育分野、総合型地域スポーツクラブ、市内スポーツ競技団体との連携	部活動で対応しきれないスポーツ種目については、学校教育分野、総合型地域スポーツクラブ、市内スポーツ競技団体と連携を図り、スポーツ競技活動ニーズに対応できる環境づくりに努めます。

(2) スポーツ指導者の育成

❖ 現状と課題

- 市民アンケートによると、市内のスポーツ競技や育成については、「盛んではない」と感じている市民の割合が高くなっています。スポーツで市を盛り上げていくためには、スポーツ競技の指導者を育成し、大洲から日本や世界で活躍できる人材を育成する環境をつくることが重要になります。
- 市民アンケートによると、スポーツ推進委員制度自体は「役に立っている」とした回答が7割強となっているのに対し、各地区のスポーツ推進委員を知らないという割合が過半数となっています。
スポーツ推進委員制度の周知や意義を高める必要があります。

❖ 主な取組

項目	内容
スポーツ指導者の資格取得の支援	スポーツ指導者の資格取得に必要な支援を検討します。
スポーツ指導者の養成	最適な指導を行えるスポーツ指導者を養成するため、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者の資格取得を促します。 また、スポーツ指導者の資質向上を図るため、公益財団法人愛媛県スポーツ協会が実施する愛媛県スポーツ指導者研修会など、研修会への積極的な参加も促します。
スポーツ推進委員の周知	生涯スポーツの振興のため、スポーツ推進委員制度は重要であります。各地区のスポーツ推進委員の認知度が低い状況にあるため、各地区のスポーツイベントの企画及び運営等にスポーツ推進委員が携わるなど活躍の場を提供し、地区住民への周知に努めます。
スポーツ推進委員の人員配置の検討	スポーツ推進委員の配置について、地域格差を減らし、各地区の人口差に応じた委員の人員配置を検討します。

❖ 数値目標

項目	令和元年度	令和6年度
スポーツ競技の指導や育成が「盛んだと思う」、「ある程度盛んだと思う」割合	22.3%	27%
スポーツ推進委員の認知状況 各地域のスポーツ推進委員を「知らない」割合	51.9%	46%

※公認スポーツ指導者とは、スポーツの振興と競技力向上にあたる各種スポーツ指導者の資質と指導力の向上を図り、指導体制を確立するため、公益財団法人日本スポーツ協会が公認する資格です。

(3) トップアスリートの支援

❖ 現状と課題

- スポーツで地域を盛り上げるためには、未来のトップアスリートの存在による影響は非常に大きいものです。「大洲といえば〇〇！」とアピールできるスポーツ環境を推進し、大洲市を挙げて未来のトップアスリートを応援する機運の醸成が必要です。
- 成果を挙げているスポーツ種目は、市内にもいくつか存在します。そうしたスポーツ種目・競技に、市民総ぐるみで機運の定着、盛り上げに取り組んでいく環境づくりが重要です。

❖ 主な取組

項目	内容
未来のトップアスリートの応援機運の醸成	全国大会等に出場する代表選手及び競技団体等に関する情報を、広報や懸垂幕、市ホームページを活用した周知に努め、市民総ぐるみで応援する機運の醸成を図ります。
スポーツ表彰制度の検討	スポーツに関して、優秀な成績を収めた代表選手及び競技団体等が、より一層の励みとなるように、表彰制度を検討します。
トップアスリートの招へいによる交流イベント・シンポジウムの開催	実績のあるトップアスリートから直接の指導・講話を受けることで、トップレベルの技術を学ぶとともに、競技への更なる関心・意欲の向上を図ります。



(4) 社会体育施設の計画的な維持管理・更新、設備の充実

❖ 現状と課題

- 市民アンケートによると、スポーツ施設の充実度について、一般において「充実している」とする回答の割合が、中学生、高校生の回答結果に比べて低くなりました。中学生、高校生では「充実している」とした割合が高くなっていることから、一般がスポーツ施設を使いやすくなるような工夫が必要です。
- 各スポーツ施設は老朽化が進み、不良箇所が判明次第、修繕を行っておりますが、維持管理が課題となっています。
- スポーツ活動拠点となる大洲市総合体育館においては、将来にわたる負担軽減及び利用者満足度を向上させるため、計画的な施設保全による施設の長寿命化を図り、継続した維持管理に努めています。

❖ 主な取組

項目	内容
将来を見据えたスポーツ施設の計画的な整備計画	平野運動公園のスポーツ施設については、組合の構成市町と協議のうえ、将来を見据えた計画的な整備計画を作成します。
スポーツ施設の管理業務委託	スポーツ活動拠点となっている大洲市総合体育館など、スポーツ施設の管理について、指定管理者とした委託方式を含めて、管理運営方法の見直しを検討します。

❖ 数値目標

項目	令和元年度	令和6年度
市内のスポーツ施設の環境が充実している割合 (一般アンケート)	40.8%	45%

4. スポーツでみんなとつながってにぎやかにやろうや！ (スポーツを通じた交流の促進と地域活性化)

(1) スポーツイベントの充実

❖ 現状と課題

- 公民館や市内のスポーツイベントについては、各地区で活発に行われています。市民アンケート結果でも、世代が若くなるほど参加経験が少なくなる一方で、参加意欲は高まる傾向となっており、各地区のスポーツイベントの充実が必要です。
- 市民アンケートによると、各地区のスポーツイベントは、交流の場として「必要」とする声が多くなっています。参加者の高齢化や固定化が進んでいることから、幅広い世代が参加したくなるようなイベントを提供する必要があります。
- 大洲ジュニアトライアスロンは、様々な要因により令和元年度に終了し、既存のスポーツイベントのうち大洲市カヌーツーリング駅伝大会の参加人数は徐々に増えていますが、大洲市駅伝大会、大洲市健康マラソン大会は、参加人数が減少傾向にあります。

❖ 主な取組

項目	内容
地区スポーツイベントの充実	各地区で開催しているスポーツイベントについて、地域スポーツ協会、スポーツ推進委員と共に企画し地域住民の年齢構成や人数等を考慮して、若い世代にも興味関心がある魅力的なイベントになるよう内容を検討しながら実施します。
地区対抗スポーツ大会の開催	市内で活発に行われているレクバレーやゲートボールなどのスポーツ種目について、市スポーツ協会と連携して地区対抗スポーツ大会を継続開催します。
市内スポーツイベントの充実	市内スポーツイベントの充実については、開催時期、開催要領、他のイベントとの共催等を検討し、参加人数が増加するよう、市スポーツ協会と連携して努めます。

❖ 数値目標

項目	令和元年度	令和6年度
公民館や市内のスポーツイベントに参加する割合	中学生 38.8% 高校生 44.0% 一 般 50.4%	中学生 43% 高校生 49% 一 般 55%

(2) 地域密着型プロスポーツ球団を活用した地域活性化

❖ 現状と課題

- 本市では、地域密着型プロスポーツ球団を応援し、これを活用した地域活性化に取り組んでいます。※
- 市民アンケートによると、一般では「現地で観戦したことがある」割合が7割を超える一方で、小学生、中高生においては「現地で観戦したことがある」割合が3割前後となっています。
- 地域密着型プロスポーツ球団への興味の希薄化や、テレビやラジオ、インターネット等により情報を得やすい環境となっていることにより、観客数は伸び悩んでいます。

❖ 主な取組

項目	内容
地域密着型プロスポーツ球団選手との交流の場を創出	地域密着型プロスポーツ球団と連携し、スポーツ教室や地域との交流等を積極的に行うなど、選手と市民が交流できる場を創出し、地域密着型プロスポーツ球団の認知度の向上と応援機運の醸成を図ります。
地域密着型プロスポーツ球団の情報発信	市庁舎内にリーグ戦順位表や、直近の試合結果の掲示を行うほか、市内のスポーツ施設に試合スケジュール表を設置するなど、積極的な情報発信を図ります。
公式戦の開催誘致	本市において、平成29年度以降開催されていないバスケットボール公式戦の開催誘致に努めます。

❖ 数値目標

項目	令和元年度	令和6年度
県のプロスポーツ球団の試合の観戦状況	小学生 26.7%	小学生 31%
現地で観戦したことがある割合	中学生 38.8%	中学生 43%
	高校生 36.6%	高校生 41%
	一般 74.9%	一般 79%

※本市では平成18年度より地域密着型プロスポーツ球団を地域資源として位置づけ、市内関係機関や団体の協力のもと「大洲市スポーツ地域振興協議会」を設立し、各球団の地域密着型活動等の支援とこれを活用した地域活性化に取り組んでいます。

(3) 地域資源を活かしたスポーツツーリズムの推進

❖ 現状と課題

- 本市の最大の地域資源は、豊かな自然と大洲城や城下町の歴史を今に伝える風情あふれる街並みです。また、肱川上流、鹿野川湖を含む山間部、市街地平野部、伊予灘に望む海岸部と地形も変化に富んでおり、様々な観光、スポーツに親しむことができる環境を有しています。
- 本市を流れる肱川は、カヌーを気軽に楽しめる自然環境を備えた河川であり、カヌースポットとして大変人気がありますが、カヌー利用者の駐車場や更衣室、シャワーといった利用者受入れ環境の整備が必要です。

❖ 主な取組

項目	内容
観光地とつなぎ合わせたスポーツツーリズムの推進	市カヌー協会、大洲カヌー同好会等と連携し、本市の地域資源を活かし、人気の観光地をつなぎ合わせたカヌー、SUPを体験する場や機会を提供することで、誘客の推進を図ります。
カヌー利用者受入れ環境の整備	カヌー利用者の駐車場や更衣室、シャワーといった利用者受入れ環境の整備を検討します。
スポーツ合宿誘致の推進	本市の地域資源を活かし、スポーツを通じた観光を推進するため、スポーツ合宿を誘致し、国立大洲青少年交流の家、市内の民間宿泊施設との連携を図り、カヌー、テニス、ソフトボール、サッカーなど、スポーツ競技団体の合宿について、あらゆる機会をとらえ、競技団体へ情報提供を行います。

❖ 数値目標

項目	令和元年度	令和6年度
国立大洲青少年交流の家 スポーツ利用団体宿泊人数	7,667 名 (平成30年度)	8,100 名

※SUP（サップ：スタンドアップパドルボード）とは、ボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいく、新感覚の水上スポーツです。ボードはサーフボードより大きくて安定感があり、初心者でも気軽に楽しむことができます。

第6章 資料編

1. 計画の策定経過

有識者会議	
令和元年 5月16日	第1回有識者会議 ➤ 目標項目の検討について
令和元年 6月12日	第2回有識者会議 ➤ スローガン、基本方針、施策について ➤ 市民アンケートについて
令和元年 10月25日	第3回有識者会議 ➤ スポーツ推進計画の施策（案）について

策定委員会	
令和元年 5月21日	第1回大洲市スポーツ推進計画策定委員会 ➤ 計画概要、策定スケジュールについて ➤ 目標項目の設定について
令和元年 6月27日	第2回大洲市スポーツ推進計画策定委員会 ➤ スローガン、基本方針、施策（案）について ➤ 市民アンケートについて
令和元年 11月18日	第3回大洲市スポーツ推進計画策定委員会 ➤ 基本理念、基本方針、目標項目について ➤ 計画の構成について ➤ 施策（案）について
令和2年 2月26日	第4回大洲市スポーツ推進計画策定委員会 ➤ パブリックコメントの結果について

団体ヒアリング	
令和元年 8月23日	障がい者団体ヒアリング ➤ 障がい者のスポーツ活動の状況等について

2. 大洲市スポーツ推進計画策定委員会 委員名簿

【策定委員会委員】

	団体名	代表者名
1	大洲市スポーツ協会	会 長 佐伯 幸一
2	大洲市スポーツ協会	理 事 長 西岡 正人
3	大洲市スポーツ推進委員会	会 長 谷本 俊一
4	大洲市スポーツ少年団	本 部 長 三好 賢一
5	N P O 法人総合型地域スポーツクラブ	理 事 谷本 稔
6	愛媛マンダリンパイレーツ大洲地区後援会	会 長 藤岡 周二
7	大洲市学校体育会	理 事 鎌田 淑博
8	大洲市P T A連合会	会 長 山本 英二
9	大洲市自治会連絡会議	会 長 山内 勝之
10	大洲市公民館	代 表 堺 勝俊
11	大洲市老人クラブ連合会	代 表 山本 重信
12	大洲市連合婦人会	会 長 玉木 妙子
13	大洲市社会福祉協議会	次 長 小池 真治
14	大洲市身体障がい者協議会	副 会 長 大塚 浩
15	大洲市食生活改善推進協議会	会 長 三瀬 琴香

【アドバイザー】

	団体名	代表者名
1	愛媛大学社会共創学部	准 教 授 山中 亮
2	愛媛のスポーツマガジン E-dge	編 集 長 元永 知宏
3	にし川株式会社	代表取締役 社 長 西川 慎一

大洲市スポーツ推進計画

発行年月 : 令和2年3月

発行・編集 : 大洲市教育委員会 文化スポーツ課

〒795-8601 愛媛県大洲市大洲690番地の1

TEL:0893-24-1734 FAX:0893-23-5760